

第5次瑞穂区地域福祉活動計画

みんながずっと **ホッ** とできる

みず **ホッ** とプラン

2024-2028



mizuhotoplan

# はじめに

超高齢社会の進展や人口減少が進む状況があるなか、地域社会においては多くの担い手の減少、地域社会そのものの存続の危機感が生まれつつあります。

また、格差社会を背景にした生活困窮者の問題、いわゆるひきこもりと高齢化があいまった8050問題、介護と育児のダブルケアを抱える世帯、ゴミ屋敷に象徴されるセルフネグレクトなど、複雑化・複合化した課題を抱える制度の狭間となるケースが表面化しています。

地域共生社会の実現は、このような社会や人々の暮らしの変化を踏まえ、制度・分野ごとの縦割りの課題や支え手と受け手という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が参加し、人と人、人と資源がつながっていくことで住民一人ひとりの暮らしや生きがい、地域社会をともに作っていくことが求められています。

こうした背景のなかで策定しました第5次瑞穂区地域福祉活動計画では、「あなたとわたしが 支えあうまち 瑞穂」を理念に掲げました。

この理念は、地域福祉の原点回帰の決意を表したものでもあります。

地域福祉の原点とは、相互に支え、支えられる関係性を構築し、その土台にあって住民主体の地域福祉活動を進めることであり、相依と転依の精神に基づくものです。

相依とは、あらゆる事物はそれ単独で成り立ち、存在しているのではなく、他と「相」互いに「依」り合う関係性において成り立たせる存在を例えたものです。

また、相依が他者との関係によるものに対し、転依とは自分の依り処を転ずることであり、自分自身を止揚して変化することです。

自分を変革し、社会を変革し、目指すところを変革して、相身互いに地域福祉を発展させていくことを大切にしていきたいと考えています。

今回の計画では、地域住民の支えあい（互助）を基盤とした地域づくりを進めるとともに、福祉分野に限らず多様な構成員が参加する機会をつくり、あらゆる世代がこの瑞穂区という郷土に生きがいを持ち、暮らし続けたいと思えるまちづくりにも直結した地域福祉の推進に努めてまいります。

令和6年3月

社会福祉法人名古屋市瑞穂区社会福祉協議会

# みんなが ずっと ホットとできる「みずホットプラン 2024-2028」

## 目次

瑞穂区社協キャラクター  
ほっとくん



	「みずホットプラン」の構成 .....	1
	瑞穂区社会福祉協議会とは .....	3
<b>第 1 章</b>	<b>みずホットプランの全体像</b> .....	<b>5</b>
	1. 計画の目的 ～何のために作るの～ .....	5
	2. 計画の期間 ～いつから、いつまでの計画なの～ .....	5
	3. 計画の推進体制と進行管理 ～ちゃんとできるの～ .....	7
<b>第 2 章</b>	<b>第4次活動計画のふりかえりと 第5次活動計画の策定</b> .....	<b>9</b>
	1. 第4次活動計画の総括と第5次活動計画に向けた提言 ～まえの計画からのひきつぎは～ .....	9
	2. 地域福祉を取り巻く現状 ～いま、どんな課題があるの～ .....	11
	3. 計画の策定体制 ～だれが計画をつくっているの～ .....	13
	4. 計画の策定経過 ～どんな流れで計画はできるの～ .....	14
	5. 計画への想い ～どんな想いが込められているの～ .....	17
<b>第 3 章</b>	<b>みずホットプラン</b> .....	<b>19</b>
	1. 基本理念 ～5年後にはどうなっているの～ .....	19
	2. 計画の体系 ～まずは全体をおしえて～ .....	21
	3. 12の実施事業 ～具体的にはどんなことをするの～ .....	23
	4. 進行計画と実施圏域 ～どのように進めるの～ .....	41
<b>第 4 章</b>	<b>キラッと光る☆お宝発見</b> ～強みを活かした小学校区別地域福祉活動～ .....	<b>45</b>
	1. 地域福祉推進協議会調査 ～学区の強み（よいところ）をしらべたの～ .....	45
	2. 各学区の取組み ～それぞれの学区ではどんなことをしているの～ .....	46
<b>第 5 章</b>	<b>むすびに</b> ～2040年を見据えて、今、取り組むこと～ .....	<b>59</b>
<b>座談会</b>	<b>みんなで作くりあげる これからの瑞穂区の福祉</b> .....	<b>65</b>
<b>資 料</b>	1. 第5次瑞穂区地域福祉活動計画 策定作業委員会設置要綱 .....	67
	2. 第5次瑞穂区地域福祉活動計画 委員名簿 .....	68
	【用語解説】 .....	69

# 第5次瑞穂区地域福祉活動計画

## 第 1 章

みずホッとプランの全体像

Q 何のためにつくるの？

Q いつから、いつまでの計画なの？

Q ちゃんとできるの？

## 第 2 章

第4次活動計画のふりかえりと  
第5次活動計画の策定

Q まえの計画からのひきつぎは？

Q いま、どんな課題があるの？

Q だれが計画をつくっているの？

Q どんな流れで計画はできるの？

Q どんな想いが込められているの？

## 第 3 章

みずホッとプラン

Q 5年後にはどうなっているの？

Q まずは全体をおしえて？

Q 具体的にはどんなことをするの？

Q どのように進めるの？

## 第 4 章

キラッと光る☆お宝発見  
～強みを活かした小学校区別地域福祉活動～

Q 学区の強み(よいところ)をしらべたの？

Q 学区ではどんなことをしているの？

## 第 5 章

むすびに  
～2040年を見据えて、今、取り組むこと～

Q わたしたちが大人になったときのこと  
まで考えて考えているの？

# 「みずホッとプラン」の構成

\*印の用語にはP69・P70に解説があります。

A	この計画は、生涯にわたって、立場や状況が変わっても、自分らしく希望をもって生きられるよう、地域の中で心地よくつながり、お互いに支えあい、認め合える地域共生社会*の実現を目的としています。
A	令和6年度（2024年度）から令和10年度（2028年度）までの5年間の計画です。
A	瑞穂区社会福祉協議会（以下「区社協」という）の事業計画と予算に反映し、事業担当職員が中心となって進めます。また、推進委員会をつくり、進み具合や見直しの必要性を話し合います。

A	推進委員会で第4次活動計画の成果をふりかえりました。また、第5次活動計画の策定に向けて様々な意見をもらいました。
A	①社会的孤立*の深刻化、②生活習慣の未確立など課題を抱える子どもの増加、③地域福祉活動を支える担い手の減少、④フレイル（体が弱くなった状態）や要介護状態の高齢者の増加などの課題があります。
A	地域の役員、ボランティア、専門職、企業、行政などで構成する策定作業委員会で計画をつくりました。また、小中高生、障がいのある本人、家族の意見を聴き、計画づくりに活かしました。
A	17回の会議（策定作業委員会3回、ワーキンググループ9回、当事者ミーティング3回、生活支援連絡部会*2回）を行い、みんなで話し合っつくりました。
A	わたしたちの「できること」は分かち合い、困った時には「助けて」と自然に言える、そんな支え、支えられる関係が当たり前にある瑞穂区にしたいとの想いを込めました。

A	「支える側」「支えられる側」と立場を固定せず、誰もが活躍できる瑞穂区になっています。
A	3つの目標と8つの方向性を踏まえて、12の事業を行います。
A	町内単位の地域福祉活動の推進や外出できる環境づくり、予防的福祉*の推進、福祉感*の創造、災害時における支援体制の整備などに取り組みます。
A	1年ごとにやることを決めて計画的に進めます。

A	地域福祉推進協議会*の皆さんに集まってもらい、話を聞かせてもらいました。
A	連携を「協力関係」に変えた御劔学区、ビジョンを持ってつながり続ける穂波学区、生涯を通して地域ぐるみで支え合う中根学区など、すべての学区で特徴のある取り組みをしています。

A	今、行っている地域福祉活動を継続することで、必ず2040年の壁を乗り越えることができます。
---	---

**2040年の壁とは**  
2040年に65歳以上の人の割合がピークになります。



# 瑞穂区社会福祉協議会とは



## 社会福祉協議会(しゃきょう)とは、

身近な人との良好な人間関係を築き、それを広げることで、

「福祉のまちづくり」を進める団体です。

～社会福祉法に位置付けられた公共性・公益性の高い民間の組織です～



「福祉のまちづくり」が進むと、私たちの生活が地域に根付きます。

- ① 身近に気にかけてくれる人がいることで、「ひとりじゃない」と安心できます。
- ② 身近に何でも話せる相談相手や居場所があることで、不安が安心に変わります。
- ③ 災害時への最大の備えになります。

⇒ 阪神・淡路大震災では生き埋めや閉じ込められた97.5%の人が自力もしくはご近所の人に救出されています。



「福祉のまちづくり」を進めるため、区社協では、つながり・居場所・参加・学びの4つの機会を創造します。

4つの機会	なぜ、必要なの？	どんなことをしているの？
つながり	私を気にかけてくれる人がいる。 まちづくりにとって大切な「お互いに支え、支えられる関係性」を育みます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域支えあい事業*</li> <li>・ふれあいネットワーク活動*</li> <li>・地域支えあいマップづくり*</li> </ul>
居場所	身近なところに気軽に相談できる居場所がある。 まちづくりにとって大切な「悩みや困りごとを打ち明けられる自立性」を育みます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふれあい給食サービス*</li> <li>・ふれあい・いきいきサロン*</li> <li>・子ども食堂*、コミュニティ食堂</li> </ul>
参加	地域で役割を持ち、活躍できる場所がある。 まちづくりにとって大切な「自分のまちを自分たちで良くしたいと実践できる市民性」を育みます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアコーディネート*</li> <li>・おでかけ応援ボランティア活動</li> <li>・寄附・募金運動</li> </ul>
学び	偏見や誤解の多くは知らないことが原因。 まちづくりにとって大切な「相手の立場で自分と向き合う当事者性」を育みます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経験者（病気、障がい）の講話や交流</li> <li>・福祉教育*</li> <li>・多文化交流*</li> </ul>



福祉とは、

一人ひとりが幸福感と安心感を持って暮らせるよう、  
自分自身、そして他者を大切に、  
お互いを助け合う関係を育むことです。



地域支えあいマップ



ふれあい・いきいきサロン



福祉教育



ボランティア



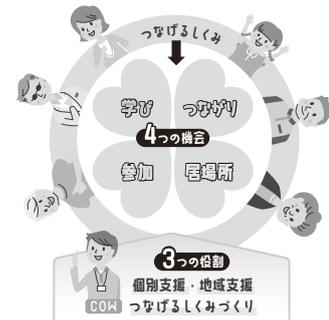
地域福祉推進協議会が、  
「福祉のまちづくり」の中心的な役割を担っています。

推進協 (学区)	特色	推進協 (学区)	特色
御劔	連携を「協力関係」に変えた御劔	豊岡	福祉×防災=安心して暮らせる豊岡
高田	「助け合う高田」を合言葉に	中根	生涯を通して、地域ぐるみで支え合う中根
堀田	多彩な場！みんなが集い、笑顔になる堀田	弥富	ご近助で、温かく見守りあう弥富
穂波	ビジョンを持って、つながり続ける穂波	陽明	コミュニティ食堂で子どもたちが活躍する陽明
井戸田	顔の見える関係でチームアプローチ井戸田	汐路	一人ひとりの声を大切に、誰ひとり取り残さない汐路
瑞穂	誰かが気にかけてくれる、ひとりでも安心感を持てる瑞穂		



社協職員の多くは社会福祉士\*の資格を持ち、  
コミュニティワーカーと呼ばれています。

社協職員は、生活の困りごとを解決し、本人の希望する暮らしを応援する**個別支援**、誰もが参加できる場づくりや必要なサービスを開発する**地域支援**、一人ひとりに合ったサービスや社会資源につなげる**しくみづくり**を行うことで、「福祉のまちづくり」を進めています。

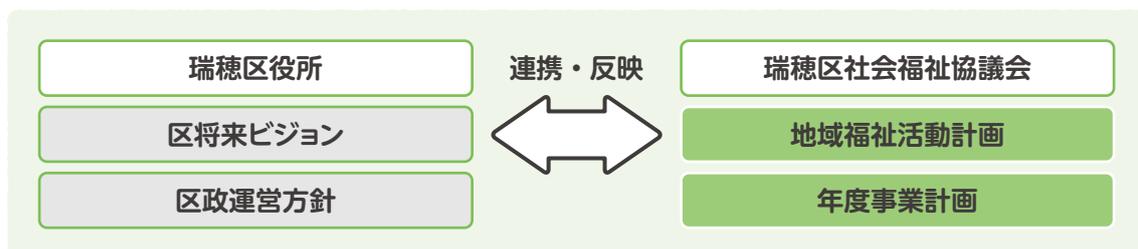


「福祉のまちづくり」は「地域福祉活動計画（区社協）」と  
「区将来ビジョン（区役所）」が連携することで実効力が高まります。

「瑞穂区将来ビジョン\*」とは、めざすべき区の姿を明らかにし、その実現に向けた中長期の取組みを体系化したものです。

一方、「地域福祉活動計画」とは、地域住民の主体性にもとづき活動を進める行動計画です。

めざすべき**方向性**を示した「区将来ビジョン」と**活動・実践**のための「地域福祉活動計画」が、地域福祉を進める両輪となります。





# 第 1 章



## みずホッとプランの全体像

### 1 計画の目的

地域課題や生活課題を解決するためには、制度の枠に当てはまるニーズに対応するだけでなく、本人の声（やりたいこと、できること）を起点とした地域づくりが大切です。

#### ⇒ ひとりの声を起点にした地域づくり

声を聴くには信頼関係を前提とします。一人ひとりの価値観の違いをお互いに認め合える共感をベースにした関係性を育むことが、地域づくりを進める土台となります。

#### ⇒ 福祉感の醸成

その土台に住民主体の地域福祉活動があって、福祉のまちになります。しかし、担い手の高齢化が進み、後継者が不在であることから、数年後の活動を見通すことが難しい状況にあります。

人から人への継承が途切れることは、これまで積み上げてきた地域づくりが中断するだけでなく、活動を通して生まれた人と人、人と社会のつながりそのものも絶たれます。

このような状況にあって、“福祉は誰かがやってくれるもの”という考え方を“地域で暮らす住民一人ひとりが福祉の担い手”へと社会全体で転換させることが解決につながります。

つまり、これからの福祉は、「支える側」「支えられる側」と立場を固定せず、誰もが活躍できる地域の実現を目指します。

#### ⇒ 誰もが活躍できるコミュニティの実現



障がい者福祉施設での交流

### 2 計画の期間

第5次となる本計画は、第4次に引き続き瑞穂区将来ビジョンと足並みを揃え、令和6年度（2024年度）から令和10年度（2028年度）までの5年間を実施期間とします。また、その期間の最終年度には、次期（第6次）計画の策定を行います。

計画／年度	2004	2008
瑞穂区 地域福祉活動計画	← 第1次 →	
瑞穂区 将来ビジョン		
名古屋市 地域福祉計画*		
名古屋市社協 地域福祉推進計画*	← 新・推進計画 →	

また、子どもの安全と安心を地域ぐるみで守ります。地域で子どもを守ることは、子どもの大人に対する信頼があって初めて成立します。子どもと大人のふれあいや子どもの社会参加の機会を増やすことで双方向の関係づくりを進めます。

そして、子ども時代の地域への好印象が大人になったときの参加の動機付け（恩返し）となり、新たな担い手につながることを期待されます。

⇒ **子どもを支える地域の取組みの推進**

私たちの暮らしは企業活動と直結しています。そこで、福祉分野だけではなく、様々な業種や職種の企業等と協働して、暮らしやすさが実感できる地域づくりを進めます。

また、地域の多様な構成員が、それぞれの得意分野や特徴を活かして地域づくりに参画できる仕組みを構築します。

⇒ **地域の多様な構成員の参画**



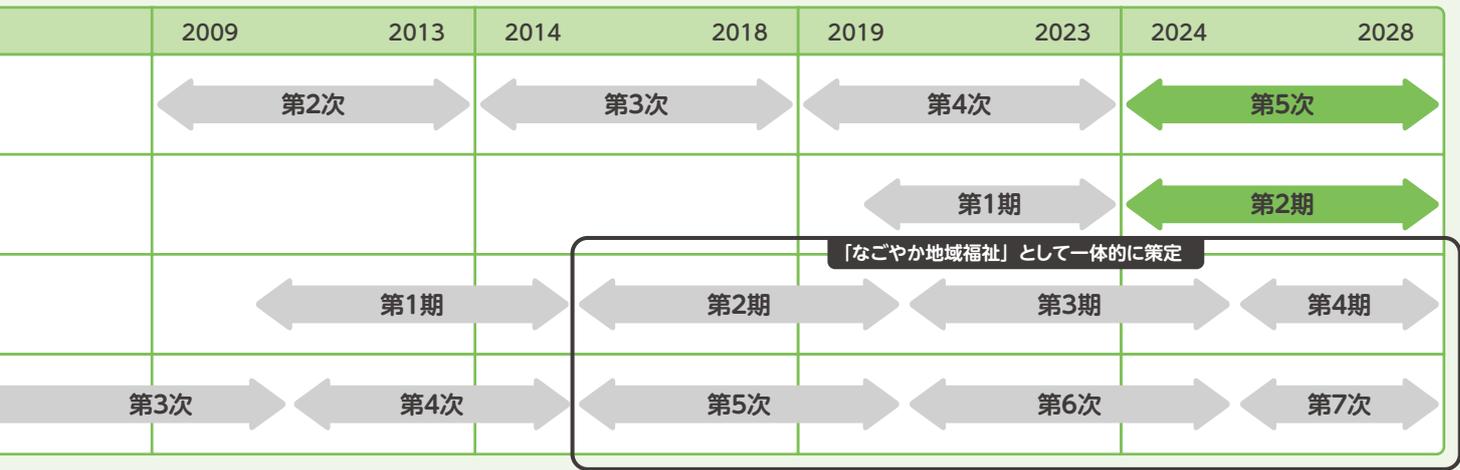
子どもたちが活躍するコミュニティ食堂



瑞穂区社協とブラザー販売(株)との連携協定

この計画は、瑞穂区民が生涯にわたって、立場や状況が変わっても、自分らしく希望をもって暮らし続けられる**地域共生社会**の実現を目的としています。

また、国際社会共通の目標である**「持続可能な開発目標（SDGs\*）」**が目指す「誰一人取り残さない」社会の実現にもつながるものです。



### 3 計画の推進体制と進行管理

本計画に位置付けた12の実施事業は区社協の事業計画・予算に反映して、実行します。

また、「第5次瑞穂区地域福祉活動計画推進委員会（以下、「推進委員会」という。）」を設置し、計画の進行状況（進み具合）を確認し、計画実施年度の3年目（2026年度）には中間まとめを行うとともに各事業の達成状況に応じて実施事業の見直しを図ります。

#### (1) 推進委員会の設置

推進委員会では、進行管理を行うとともに、計画の趣旨や理念に沿った事業展開ができるよう、適宜、適切な改善を行います。

また、実施事業を進めるにあたり、特定のテーマを集中的に検討する必要がある場合にはプロジェクトチームを設置します。



#### (2) 事務局体制

区社協では、学区担当職員が学区の状況に合わせた地域支援を進めるとともに、実施事業ごとに事業担当職員を置き、確実に遂行できる体制を整備します。

#### (3) 進行管理

毎年度、進行状況を確認するとともに、区社協としての自己評価を行い、推進委員会に報告します。

また、区社協広報紙「みずほっと」やホームページなどで進行状況を公表します。



# 障がいのある人 本人ミーティング



「ご近所との関係」や  
「障がいと向き合う心情の変化」について、  
これまでの人生を振り返り、  
エピソードを交えて話をしてもらいました。

〇〇ちゃん。車いすに乗っていても、  
今のままでいいからね。

姪っ子が幼稚園に通いだした頃のある日、「車いすに乗っていても、今のままでいいからね。」と言ってくれた。こんな小さな子が、何もできない、家でごろごろしているだけの私を認めてくれている。それなのに、私は一体何をしていたんだろうって気づかせてくれたのがきっかけになって、少しずつ外に出るようになった。

やっと、自分の障がいを許すことができた。

私は生まれつきの障がいなので、自分を受け入れるとかってよく分からないけれど、自分が仕事をしてお金を稼ぐようになって、税金を納めるようになって、やっと自分を許すことができたかな。  
自分の障がいを許すことができたかな。



日常で経験する辛さや大変さの多くが、私たち社会の側にあることを知りました。  
一方、障がいを受容し、前向きに生きるきっかけも私たち社会の側にありました。  
「本人の言葉」は社会に大切なメッセージを与えてくれています。

できない人って決めつけず、  
一緒にやろうって思ってもらいたい。

車いすに乗っている私が住んでいることを知ってもらおうと、マンションの管理組合の会議に参加してみた。

最初は、「エー」みたいな感じがあったけれど、参加を続けるうちに、手助けをしてくれる人や声をかけてくれる人が増えていった。

次第に会計とかを任されるようになって、ちょっと認められたような気がしている。

障がいはあっても、一人前の大人として社会に認めてもらいたい気持ちはすごくある。

できないって決めつけるのではなく、一緒にやろうって思ってもらいたい。そして、社会参加できる機会をどんどん増やしてほしい。

落とし穴がいっぱいあって、  
突然、ワッって落ちるみたいな感じ。

昨日まで元気だったのに、今日は朝から何もできないとか。いきなり襲われるって感じ。だから、予定が立てられないし、仕事も続かない。

その症状を伝えようと思っても、それを伝える日本語が存在しない。伝えられないから、自分だけ苦しんでいるって気持ちになるし、それが一番つらい。





## 第 2 章



# 第4次活動計画のふりかえりと 第5次活動計画の策定

## 1 第4次活動計画の総括と第5次活動計画に向けた提言

### 第4次活動計画時の福祉概況

平成22年（2010年）に「無縁社会」という言葉が使われるようになって以降も、家族同士の助け合いの機能低下や地域のつながりの希薄化が進行しました。それに起因し、様々な課題が絡み合って複雑化し、複数の分野にまたがる課題を抱える世帯が増え、「8050問題\*」や「ダブルケア\*」「ヤングケアラー\*」などの新たな福祉課題が表面化しました。

また、令和2年（2020年）初頭から始まった新型コロナウイルス感染症の影響で、人と人とお互いに距離をとり接触の機会を減らす「ソーシャルディスタンス」と呼ばれた感染拡大防止対策を講じたことで、対面や集会を基本とする地域福祉活動は多くの制約を受け、社会的孤立の増加や課題の複雑化、深刻化に拍車をかける要因になりました。

しかし、令和5年（2023年）にはコロナ禍から脱却する時期を迎え、新しい生活様式を踏まえた地域福祉活動が徐々に見受けられるようになりました。

一方、国は平成28年（2016年）に「ニッポン一億総活躍プラン」で、支え手側と受け手側に分かれるのではなく、誰もが役割を持ち、活躍できる地域共生社会の実現を提起し、地域における新たなつながりを再構築すること

を求めました。この動きは「平成29年改正法（地域包括ケアシステムの強化のための介護保険法等の一部を改正する法律）」における包括的な支援体制の整備、「令和2年改正社会福祉法」における重層的支援体制整備事業\*の創設と続き、社会的孤立、制度の狭間、サービスにつながらない課題、あるいは将来への不安に対して地域全体で支えあうことを目指しています。

### 第4次活動計画の総括

変動する社会情勢や国の政策を背景にして策定、実施となった第4次活動計画は、『人と人とのつながりを、地域の支えあいの力に変え、孤立を防ぐ仕組みづくり』を基本方針に3つの実施計画を取組みの最重点としました。

#### 実施計画①

学区における、ちょっとした生活の困りごとを住民同士で解決する仕組みの拡充

#### 実施計画②

孤立させない「つながり」づくり

#### 実施計画③

学区の福祉課題について、中・長期的な視点で、取り組み方針を立てる



井戸田学区  
地域支えあい  
事業



瑞穂学区  
お弁当の  
テイクアウト



豊岡学区  
推進協調査

**実施計画 ①**

**総括**

「地域支えあい事業」の実施学区を増やすことで、地域で身近な相談窓口を開設するとともに、住民同士で助け合う地域づくりを進めることができました。また、1学区においては、2～3町内を1グループとし、グループ単位での生活支援活動が始まっています。

学区単位からより身近な生活範囲である町内単位で地域支えあい事業を行うことで、「事業」から「関係」に変わり、地域課題を「他人事」から「自分事」として考えられるようになるなど、地域の福祉力向上につながる契機になりました。

**提言**

課題が深刻化する前に早期発見できる「予防的福祉」を推進する必要があります。そのためには、①住民同士のつながりづくりを進めるとともに、②住民と専門職の連携、③専門職同士の連携を重層的につなぎ合わせることも重要です。

第5次計画で目指すべき方向性

- 方向性 ① 町内単位の地域福祉活動の推進
- 方向性 ② 地域の多様な構成員の参画
- 方向性 ④ 予防的福祉の推進
- 方向性 ⑦ 福祉感の創造

**実施計画 ②**

**総括**

「拠点型サロン 瑞穂ほっこりサロン\*」では、送迎支援と相談機能を持つことで、健康状態が低下しても参加し続けられる社会資源となり、また何気ない会話から困りごとを把握することで、本人の状態に合わせた適切なサービス等につなげることができました。

また、食を通してひとり暮らし高齢者の見守りや住民同士のつながりづくりを進める「ふれあい給食サービス」では、会食だけではなく配食や持ち帰りといった多様な形態で実施をすることで、これまで参加できなかった人の参加につながりました。

さらに「おでかけ応援ボランティア」に取り組み、本人が希望する外出を支援しました。ボランティアが本人の希望に柔軟に応えることで生きる意欲や力を引き出す支援になっています。

**提言**

様々な事情により自ら相談機関に行けない方が多くいます。サロンのような集いの場での何気ない会話から、課題を把握することで、相談につながることもあります。そのため、サロンの相談機能を向上させる必要があります。

また、「おでかけ応援ボランティア」を拡充し、様々なニーズに応えられる外出支援の整備が必要です。

第5次計画で目指すべき方向性

- 方向性 ③ 外出できる環境づくり
- 方向性 ④ 予防的福祉の推進
- 方向性 ⑤ 多様な相談経路の確保
- 方向性 ⑦ 福祉感の創造

**実施計画 ③**

**総括**

学区の実情に合わせた中・長期の学区福祉計画の策定に取り組みました。しかし、コロナの影響により先を見通しにくい状況となり、また、学区の状況も変化したことから、改めて「推進協調査」を全学区で実施し、現状把握を行いました（うち1学区はアンケート調査）。

「推進協調査」では学区の抱える課題だけではなく学区の持つ強みを把握し、その強みを横展開していく「推進協ワーキング」につなげることができました。推進協同士がそれぞれの強みや特長を“見える化、見せる化”し、その意味や価値を共有することで、新たな展開が始まるきっかけになりました。

**提言**

学区福祉計画の策定に向けたプロセスとして、推進協同士で協議する機会をつくり、横展開を進めることが必要です。

また、学区内において、目指す地域像や事業目的を話し合うことで住民の主体性を高める必要があります。

第5次計画で目指すべき方向性

- 方向性 ① 町内単位の地域福祉活動の推進
- 方向性 ④ 予防的福祉の推進
- 方向性 ⑥ ひとりの声から始める地域づくり
- 方向性 ⑦ 福祉感の創造

## 2 地域福祉を取り巻く現状

瑞穂区では計画期間を5年間とする活動計画を平成16年(2004年)に初めて策定して以降、第4次に至るまで活動計画を更新し、福祉のまちづくりを進めてきました。

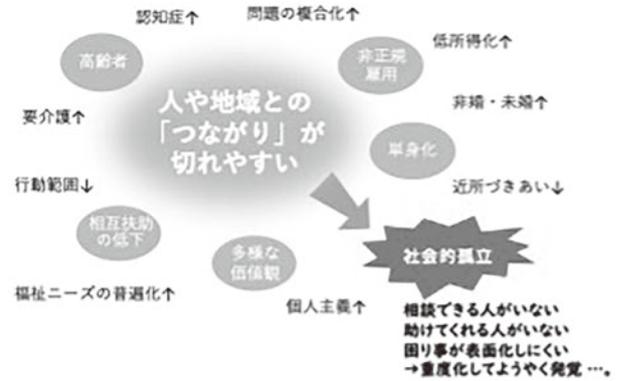
しかし、令和2年(2020年)初頭から流行した新型コロナウイルス感染症の影響で、これまでの対面と集合を基本とする地域福祉活動の多くは制約を受け、人と人とのふれあいや交流の機会は大幅に減少しました。

地域における支えあいの基盤がぜい弱化するなかで、社会的孤立の問題は深刻化し、高齢者世帯や単身世帯にとどまらず、あらゆる世帯に広がっています。

また、誰にも相談できず、必要な社会資源につなげることができないことで、8050問題や生活困窮、ひきこもりなど複数の分野にまたがる課題を抱える世帯が増えています。

さらに、子育てや子どもの育ちに関しては、子育て家庭を包括的に支援する体制が求められる一方で、子どもの生活習慣の未確立や規範意識の低下など様々な課題が表面化しています。

### 地域社会を取り巻く状況



一方、地域福祉活動の主な担い手であったボランティアは、活動の機会を制限されたことで活動意欲(モチベーション)が低下し、コロナ禍以降においても、再開に至らない、または活動の縮小をせざるを得ない状況が見受けられます。

そうしたボランティア活動の停滞は高齢者等の参加の機会を奪い、再開までの期間に健康状態が低下し、生活習慣が変化したことで、サロンや給食会などの地域行事に参加できなくなった人も出てきています。

### 地域を取り巻く 様々な課題



- 社会的孤立の深刻化、複雑・複合的な課題を抱える世帯の増加
- 生活習慣の未確立等の課題を抱える子どもの増加
- 地域福祉活動を支える担い手の減少
- 地域行事に参加する人の減少
- 健康状態が低下する高齢者の増加(フレイル状態、要介護状態)

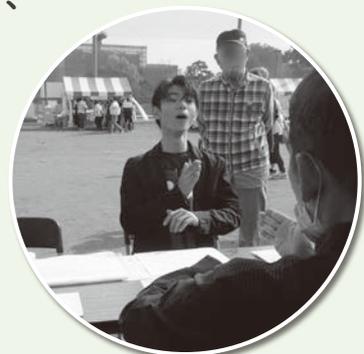
このような状況にあって、国が提起している「地域共生社会」における“人と人とのつながりそのものがセーフティネット”という考え方は、第4次活動計画で基本目標としました「住民が主体となった、地域における助けあい・支えあい活動の推進」と考えを同じくするものです。

改めて、誰もが役割を持ち、一人でいても地域との連帯感や人の温もりを感じながら、その人らしい生活を送ることができる地域づくりを進めることが第5次活動計画では求められています。



### 地域共生社会とは？

制度・分野ごとの「縦割り」や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えてつながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会



人と人とのつながりそのものがセーフティネット

### 3 計画の策定体制

#### (1) 策定作業委員会

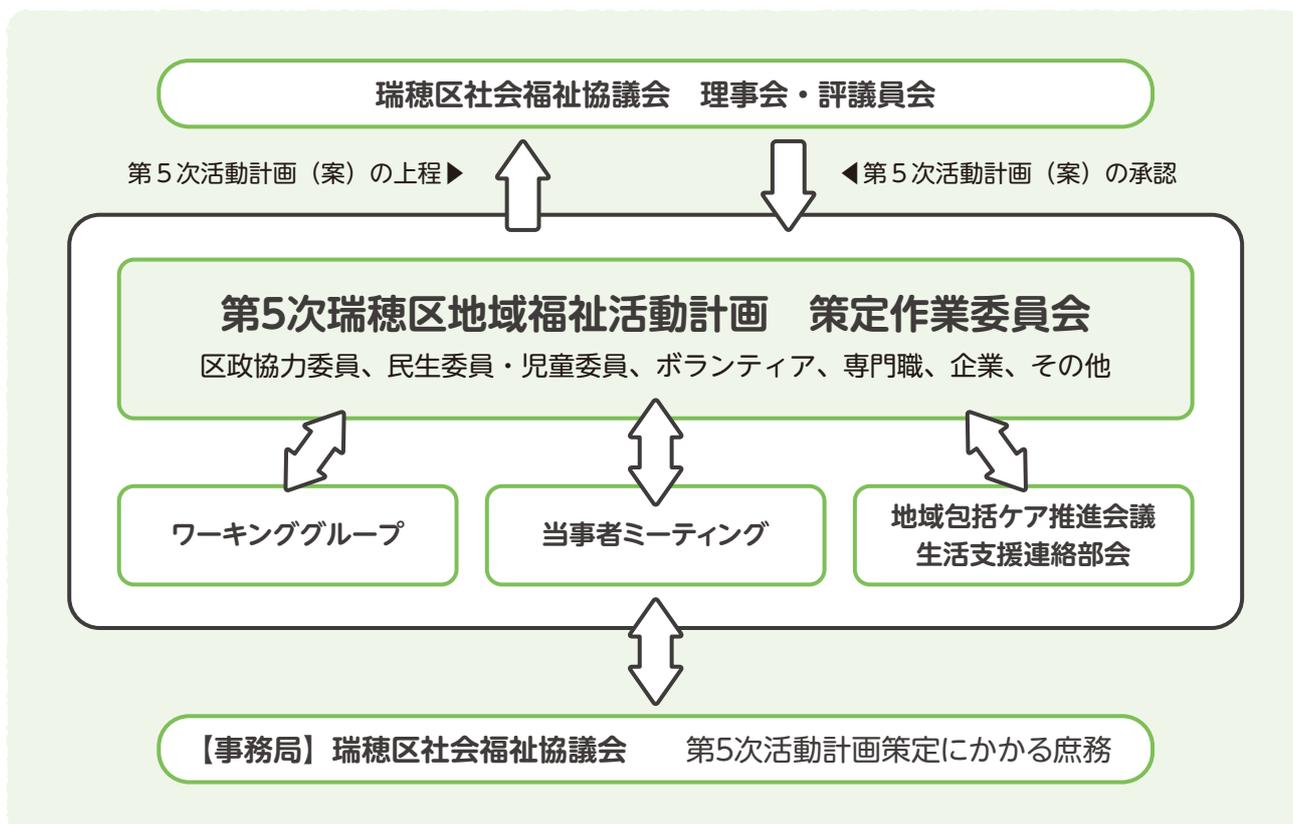
第5次活動計画の策定に関して話し合うため、区社協会長が委嘱した委員による策定作業委員会（定員35名）を設置しました。

#### (2) ワーキンググループ

テーマごとにワーキンググループ（WG）を設置しました。高齢者サロンについては地域包括ケア推進会議生活支援連絡部会で話し合いました。

#### (3) 当事者ミーティング

本人や経験者の声を地域づくりに役立てるため、小中高生、障がい者本人、障がい者の家族が集まり、経験や希望を語るミーティングを開催しました。



当事者ミーティング（小中高生）



当事者ミーティング（障がい者本人）

## 4 計画の策定経過

時期	会議	内容
2023年 4月26日	第4次推進委員会	<ol style="list-style-type: none"> <li>第4次地域福祉活動計画の総括</li> <li>第5次地域福祉活動計画への提言</li> <li>各ワーキンググループからの報告</li> <li>第5次地域福祉活動計画の体制</li> </ol>
5月31日	第5次策定作業委員会 (第1回)	<ol style="list-style-type: none"> <li>第5次地域福祉活動計画の策定 <ul style="list-style-type: none"> <li>背景、目的、方向性</li> <li>体制</li> </ul> </li> <li>第5次地域福祉活動計画の全体像</li> </ol>
8月22日	推進協研修会	<ol style="list-style-type: none"> <li>学区推進協調査 報告書の共有</li> </ol>
9月20日 9月22日 9月28日	ワーキンググループ (第1回)	<ol style="list-style-type: none"> <li>実施事業に関するアイデア出し</li> <li>リーダーの選出</li> </ol>
9月23日	当事者ミーティング (小中高生)	<ol style="list-style-type: none"> <li>カードを使ったシチュエーショントーク</li> <li>「私が○●になったら、こんなことをします」宣言</li> </ol>
10月12日	リーダー会 (第1回)	<ol style="list-style-type: none"> <li>各ワーキンググループの共有</li> <li>理念（ビジョン）の検討</li> </ol>
10月23日 10月26日 10月31日	ワーキンググループ (第2回)	<ol style="list-style-type: none"> <li>実施事業の検討 <ul style="list-style-type: none"> <li>目的（なぜ、今この取組が必要なのか）</li> <li>目標（5年後の姿）</li> <li>戦略（どのように事業を進めていくのか）</li> </ul> </li> </ol>



第2章

第4次活動計画のふりかえりと  
第5次活動計画の策定

時期	会議	内容
2023年 11月9日	当事者ミーティング (障がい者家族)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ご近所との関係</li> <li>2 障がいに向き合う心情の変化</li> <li>3 専門職との関係</li> </ol>
11月10日	当事者ミーティング (障がい者本人)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ご近所との関係</li> <li>2 障がいに向き合う心情の変化</li> <li>3 専門職との関係</li> </ol>
11月13日	リーダー会 (第2回)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 各ワーキンググループの共有</li> <li>2 理念の検討</li> </ol>
11月27日	第5次策定作業委員会 (第2回)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 策定作業委員会設置要綱の一部改正</li> <li>2 進捗状況報告</li> </ol>
2024年 1月29日	リーダー会 (第3回)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 冊子の構成</li> <li>2 内容の最終確認</li> </ol>
3月22日	第5次策定作業委員会 (第3回)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 最終報告</li> <li>2 今後の推進方法と推進体制</li> </ol>



## 障がい者家族ミーティング



「ご近所との関係」や「障がいと向き合う心情の変化」について、これまでの人生を振り返り、エピソードを交えて話をしてもらいました。

愛護手帳を取ると障がいのグループに入ると、なかなか取得できなかった。

保育園、小学校と周りの協力があって、みんなから受け入れてもらっていました。

小学校を卒業して、周りの人も大きくなってきて、自分の身の危険も感じて、中学からは養護学校へ行きたいと思い、必要に迫られて愛護手帳を取りました。

愛護手帳を取ると障がいのレッテルを貼ってしまうようで悩みましたが、最後には必要に迫られて取りました。

自分の中に偏見があったんですね。障がいのグループに入れてしまっているのかと。

普通に接してほしいみたい。

私たちの子って意外とセンサーがしっかりしている。人を見分ける力っていいのか、意外とあるんだね。

障がいがあるなって思って、割とオーバーに「○●ちゃん」って来られると嫌みたい。普通に接してほしいみたい。

分かりやすい言葉で話してくださいとはお願いするんですけど、あまりオーバーにされると、かえって身構えてしまって。

わたしがこの世からいなくなっても、一人で生きていけるといいかな。

喫茶店のママ、ご近所のママ、自助グループの方など、地域に母親代わりが何人もいます。

本人を中心とした見守りのチームを作ることが大事。

それとフラットな親子関係が必要だと思う。

以前に「一人支援者が増えたら、一歩離れなさい。もう一人増えたら、また下がりなさい。」と言われたことがある。

子どもの尊厳と同じように親の尊厳も守らないといけない。

この子は治るんじゃなくて、こういう障がいで生きていくんだな。

養護学校に入って、親の会に入るようになって、障がいのことを勉強するようになった。

そこで何となく、この子は治るんじゃなくて、こういう障がいで生きていくんだなって、その時に自分が受け入れたように思う。

先輩のお母さんからいろいろな話を聞いて、これからこういうことが起こるんだなとか、悩みを話すと、「そんなのあるある」って感じで笑いにされたりして、一人にならなくて本当に良かったなって思っています。



誰でも人生において、生きづらさや困難に直面することはあります。その時、このエピソードとご家族の言葉を思い出してください。それを乗り越えるヒントは自分の内にもあり、また、他者とのつながりの中にもあります。



## 5 計画への想い

瑞穂区の現状を踏まえ、これから必要となる地域福祉活動について、何度も話し合いを重ねました。まずは、計画に込めた想いを本編に入る前にご覧ください。

理念

### あなたとわたしが 支えあうまち 瑞穂

～「おはよう」や「ありがとう」でつながる、広がる、ふくしの輪～

◆ 実施事業 1 瑞穂区地域福祉活動発表会の開催

◆ 実施事業 2 町内対抗ボッチャ\*大会の開催

「遠い親戚より近くの他人」という言葉があるけれど、  
気にかけてくれる人が近所にいると安心できるね。



- 1 町内で行われている地域福祉活動（見守り、サロンなど）を発表します。
- 2 町内対抗のボッチャ大会を開催します。

◆ 実施事業 3 地域づくりのプラットフォーム\*の形成

学校や社会に馴染めない人も、  
自分の能力が発揮できる場所は  
必要だよな。



令和4年4月に区社協と  
連携協力協定を締結した  
ブラザー販売(株)と協力し、ひきこもりの人の  
社会参加の機会をつくっています。

- 3 働く人と暮らす人が一緒に瑞穂区のことを考える機会をつくります。

◆ 実施事業 4 おでかけ応援ボランティアの拡充

◆ 実施事業 5 移動サービスの実施～通所事業所\*との連携～

「私は○●がしたい」自分がやりたいことを  
当たり前伝えられる社会にしたいね。

- 4 本人の希望する外出をボランティアがサポートします。
- 5 送迎付きの給食会を目指します。



◆ 実施事業 6 ふれあいネットワーク活動の拡充～協力事業者との連携～

◆ 実施事業 7 子どもを支える地域の取組みの推進

私たちが子どもにとって信頼される  
大人になれるといいな。

- 6 スーパーや金融機関等と協力し、見守りの場面を増やします。
- 7 子どもと大人のふれあいや子どもの社会参加の機会を増やします。



わたしたちの「できること」は分かち合い、  
困った時には「助けて」と自然に言える、  
そんな支え、支えられる関係が  
当たり前にある瑞穂区になったらいいよね。



実施事業 8 相談しやすいサロンづくり

ひとりで悩んでいる人に伝えたい。  
「助けて」って言うてもいいんだよ。



8 ご近所で何でも話せる場を増やします。

実施事業 9 学区福祉計画の策定

実施事業 10 コミュニティソーシャルワーク (CSW)\*機能の強化

子ども食堂は増え続けているよ。  
「必要だよね」その思いが活動の原動力になるんだね。

9 学区の強みを活かした福祉計画を策定します。

10 社協職員の力量を高めます。



実施事業 11 サービスラーニング\*の手法を用いた福祉教育の実施

老いや障がいは将来の自分のことかもしれません。  
将来の自分の暮らしを守るために、  
今、何ができるかを考えてほしいな。



11 「自分たちのまちを良くしたい!!」  
地域貢献できる若い世代を増やします。

実施事業 12 災害ボランティアセンター\*の機能強化

「災害時に生死を分けるのは日ごろの備え」  
そう話すのは東日本大震災の被災者です。  
本気で備えるかどうか紙一重の差になります。



12 区社協、区役所、ボランティア、専門職が協力して災害に備えます。



## 第 3 章



# みずホッとプラン

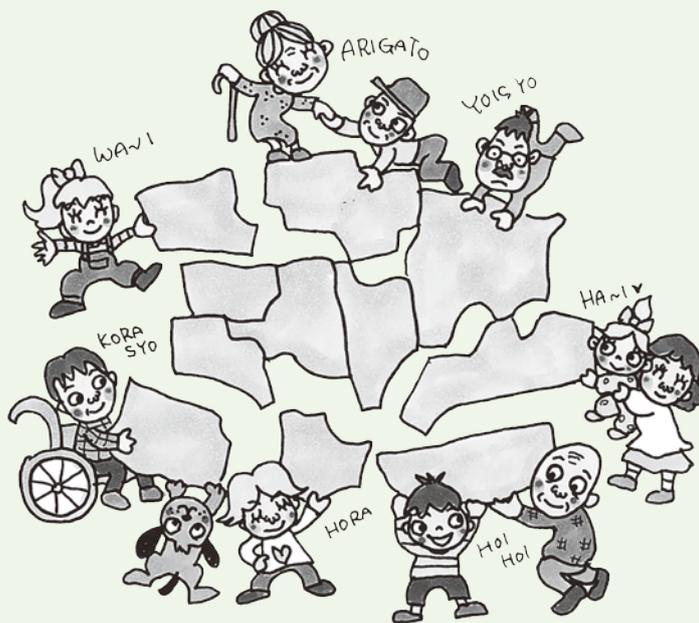
## 1 基本理念

### あなたとわたしが 支えあうまち 瑞穂

～「おはよう」や「ありがとう」でつながる、広がる、ふくしの輪～

この計画は、病気や障がいになって立場や状況が変わったとしても、自分らしく希望をもって生きていけるよう、ご近所同士が心地よくつながり、お互いに支えあい、認め合える地域共生社会を目指しています。

また、基本理念には、わたしたちの「できること」は分かち合い、困った時には「助けて」と自然に言える、そんな支え、支えられる関係が当たり前にある瑞穂区になってほしいという想いが込められています。



# 自分の中の『助け上手』と『助けられ上手』をいっしょに育てよう!



ある調査によると、「あなたの近くで困っている人がいたら、助けますか」との問いに、「頼まれなくても助ける」と答えた人が約2割、「『助けて』と言われたら、助ける」と答えた人が約7割だったそうです。



〈あなたの近くで困っている人がいたら、助けますか。〉

答 え	割 合
頼まれなくても助ける	約2割
『助けて』と言われたら、助ける	約7割

## 「助け上手」

もし、何らかの事情があり、「助けて」と言うことができなければ、手を差し伸べる人は長らく現れないかもしれません。

ただ、「助けて」と言えないことは特別ではありません。本当に苦しいとき、「助けて」と言えなかった経験のある人は多くいるように思えます。

その経験を大切にすることで、相手の気持ちを察する力が身に付き「助け上手」になります。



私たちは生涯において、手を差し伸べる時もあれば、手を差し伸べられる時もあります。

自分の中の「助け上手」と「助けられ上手」を一緒に育むことは、自助力が高まるだけでなく、互助力（ご近所同士の助け合い）にもつながります。

しかし、互助（ご近所同士の助け合い）を進めるとき、人間関係のあつれき（副作用）が生じる可能性があります。

一人ひとりが「助け上手」と「助けられ上手」の両面を育むことで、副作用を包み込む勇気も備わっていくのではないのでしょうか。

## 「助けられ上手」

「助けて」と言うのが苦手な人は「恥ずかしい」「断られたらどうしよう」と心が動きます。

しかし、自分に向けられた意識のベクトルを他者に向けることができれば、苦手意識は軽減していきます。

「人の役に立ちたい」「誰かを喜ばせたい」は社会性をもった私たちの本質です。

「助けて」と言うことは、自分のためだけではなく、相手のためにもなっていると捉え直すことができれば、気兼ねなく伝えられるようになるのではないのでしょうか。

人は助けられて楽になります。助けている人もまた、自己肯定感が高まっています。そう思えたとき、「助けられ上手」になります。



## 2 計画の体系

### 理念

# あなたとわたしが 支えあうまち

#### 目標

#### 目標に向けた方向性



#### 目標 1

誰もが役割と  
生きがいを持ち続け  
人や社会と  
つながり続ける

#### 方向性 1

#### 町内単位の地域福祉活動の推進

小学校区単位から町内単位の取組みへと、より身近な生活範囲で地域福祉活動を進めます

#### 方向性 2

#### 地域の多様な構成員の参画

福祉分野に限らず、業種や分野を超えて連携し、地域の中に「参加の場」「就労につながる場」を見出します。

#### 方向性 3

#### 外出できる環境づくり

おでかけ応援ボランティアの拡充と通所事業所と連携した移動サービスを進めます

#### 目標 2

困りごとを抱えた  
人たちを受けとめ  
支えあえる  
仕組みをつくる

#### 方向性 4

#### 予防的福祉の推進

住民同士、住民と専門職、専門職同士の連携をつなぎ合わせ、年齢やニーズの区別なく、“丸ごと支援”できる仕組みをつくります

#### 方向性 5

#### 多様な相談経路の確保

集いの場（サロン、給食会等）での相談機能、つなぎ機能を向上します

#### 目標 3

福祉の  
まちづくりを進める  
基盤をつくる

#### 方向性 6

#### ひとりの声から始める地域づくり

障がい者、外国人など社会的少数者（マイノリティ）の声を地域づくりに活かします

#### 方向性 7

#### 福祉感の創造

当事者性（相手の立場で自分と向き合う心）を育み、ともに生きる関係性を構築し、地域貢献できる人材を養成します

#### 方向性 8

#### 災害時における支援体制の整備

災害時要援護者の支援や被災者の多様なニーズに応えるため、専門職との連携強化に取り組みます





# 瑞穂 ～「おはよう」や「ありがとう」でつながる、広がる、ふくしの輪～

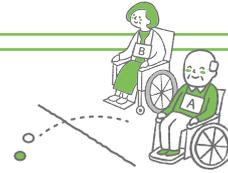


## 実施事業

▶ **事業 1** 瑞穂区地域福祉活動発表会の開催

▶ **事業 2** 町内対抗ボッチャ大会の開催

▶ **事業 3** 地域づくりのプラットフォームの形成  
～子どもから高齢者まで丸ごと支援～



▶ **事業 4** おでかけ応援ボランティアの拡充

▶ **事業 5** 移動サービスの実施  
～通所事業所との連携～



▶ **事業 6** ふれあいネットワーク活動の拡充  
～協力事業者との連携～

▶ **事業 7** 子どもを支える  
地域の取組みを推進

▶ **事業 8** 相談しやすいサロンづくり



▶ **事業 9** 学区福祉計画の策定

▶ **事業 10** コミュニティソーシャルワーク（CSW）  
機能の強化

▶ **事業 11** サービスラーニングの手法を用いた福祉教育の実施

▶ **事業 12** 災害ボランティアセンターの機能強化



### 3 12の実施事業

#### 目標 1

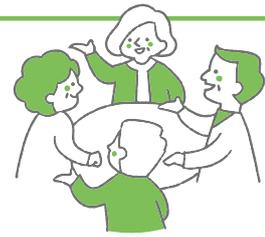
誰もが役割と生きがいを持ち続け、人や社会とつながり続ける

#### 方向性 1

## 町内単位の地域福祉活動の推進

小学校区単位から町内単位の取組みへと、より身近な生活範囲で地域福祉活動を進めます

より身近な生活範囲で地域福祉活動をすることで、地域の困りごとを“他人事”ではなく“自分事”として受け止め、住民同士で解決策を考え、実践できる地域づくりを進めます。



#### 現状と課題

- 全学区の地域福祉推進協議会で「ふれあいネットワーク活動」や「地域支えあいマップづくり」を行い、ご近所での見守り活動を進めています。
- すでに、町内での地域福祉活動（見守り、サロンなど）が行われている事例があります。
- 認知症や精神疾患などの病気や障がいにより社会的に孤立し、困りごとが複雑、深刻化している人がいます。
- 阪神・淡路大震災では、生き埋めや閉じ込められた97.5%の人が自力もしくはご近所の人に救出されています。

## ワーキンググループの意見&実践事例



ソフトボールでもグラウンドゴルフでも、町内ごとに集まる機会がもっとほしい。ポッチャは誰でも参加できるのでお勧めです!

こちらの二次元コードから、ポッチャの様子が見られるよ。



「困った時には助け合おう」と言ってきたが、実際に家族が亡くなったとき「助けて」と言えなかった。サービスや制度では心を支えることはできない。



種波学区のある町内会では、町内会長の連絡先を記載したバッジを高齢者等に配布。町内のことは自分たちで守るとの認識を共有している。(P50参照)



中根学区では、町内対抗ソフトボール大会を開催している。大会を通して、家族ぐるみの交流ができています。(P54参照)

## 実施事業 1

## 瑞穂区地域福祉活動発表会の開催

区民や社会福祉関係者を対象に、町内で行われている地域福祉活動を発表します。発表を通して、「必要性」を共有することで、新しい活動が生まれる契機（きっかけ）とします。

## 事業の効果

活動の原動力が高まります。  
「うちの町内にも必要だね」から  
「やりたい」の意欲を促します。

## 5年後の姿（目標）

「発表」「共感」「活動」が循環し、  
町内の地域福祉活動が活発に  
行われています。

## 戦略

町内会による見守り（穂波）、町内のサロン（堀田）、町内単位の地域支えあい事業（井戸田）など、『できていること（あるもの）』を探し、その活動に意味づけをすることで、発表につなげます。

どんな発表をするのかな？



身近な人同士の助け合い活動が中心かな。緑の下の活動をみんなには知ってもらいたいな。

こども食堂の約46%がコロナ禍以降に開設されているよ。こども食堂の「必要性」をみんなが感じたからだね。

## 実施事業 2

## 町内対抗ボッチャ大会の開催

ボッチャは、年齢、性別、障がいの有無にかかわらず、誰でも参加できる競技です。町内単位でチームを結成し、町内対抗のボッチャ大会を行います。

## 事業の効果

顔馴染みが増えます。  
同じ町内に住む人同士が自然に交流できる機会になります。

## 5年後の姿（目標）

同じ町内に住む人同士が知り合い、自然に気にかけて関係ができています。

## 戦略

中根学区（ソフトボール）、穂波学区（ボウリング）、堀田学区（ゲーリング）を参考にします。ボッチャ大会を通して、障がいへの理解促進や令和8年（2026年）に開催されるアジアパラ競技大会に向けた機運を醸成します。（P38参照）

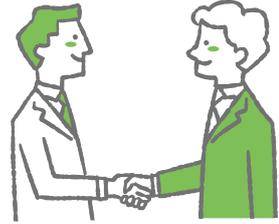
誰もが役割と生きがいを持ち続け、人や社会とつながり続ける

## 方向性 2

# 地域の多様な構成員の参画

福祉分野に限らず、業種や分野を越えて連携し、地域の中に「参加の場」「就労につながる場」を見出します

福祉分野以外で活動する企業などがそれぞれの得意分野や特徴を活かして地域づくりに参画することで、経験者等本人（障がいのある人、病気の人、学校や社会に馴染めない人など）の声をカタチにする地域づくりを進めます。



### 現状と課題

- SDGsを踏まえた取組みやコロナ禍を機に社会貢献を検討するなど、企業が地域福祉に参画する機運は高まっています。
- 令和6年度（2024年度）から重層的支援体制整備事業が始まります。民間事業者や社会福祉法人などと協働し地域づくりを進める視点が位置付けられています。
- 区社協ではブラザー販売株と協定を結び、協働して地域福祉活動を進めています。
- 企業、学校などが参加し地域づくりについて話し合う機会はこれまであまりありませんでした。

## ワーキンググループの意見&実践事例



瑞穂区内にある企業とつながることができればよいと思う。まずは、企業の意向を聴く機会を作ってみてはどうか。



一人ひとりの生活に密着した関係のあるスーパー、コンビニ、銀行、郵便局、理美容院から連携を始めたらどうか。



令和4年4月に連携協力に関する協定を締結したブラザー販売株との協働では、ひきこもりの人の就労体験（ミシンを使ったワッペンづくり）や高齢者の社会参加（古着でクリスマスツリーオーナメントづくり）などを行っています。

お互いの強みを活かしつつ、社会課題を解決する活動を進めています。

## 実施事業 3

## 地域づくりのプラットフォームの形成

～子どもから高齢者まで丸ごと支援～

それぞれの得意分野やネットワークを活かしながら、地域課題を解決するための協議の場として「地域づくりのプラットフォーム」の形成を進めます。

## 事業の効果

働く人が参加します。  
暮らす人と働く人が一緒に話し合うことで、解決の選択肢を増やします。

## 5年後の姿（目標）

地域住民、民間事業者、  
社会福祉法人、地域関係団体、  
行政などが地域づくりに  
参画しています。

## 戦略

いきいき支援センターが実施する「認知症の人にやさしい店認定店」の参加事業者や、子ども・若者支援機関、障害者支援機関との連携を深めることでプラットフォームの形成を進めます。

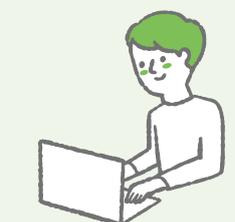
## 本人の「やりたい」を叶えます！

レジですぐにお金を出せない。迷惑をかけるから、なるべく行かないようにしている。



あるスーパーにスローレジが導入されました。スローレジとは、時間をかけて会計をしてもよい有人レジのこと。特に高齢者は、小銭やポイントカードを出すのに手間取ったり、認知症のために時間がかかったりと、会計をすることに負担を感じることがあります。そうしたときに、レジの店員がサポートしながらゆっくり会計できるのが特徴です。

学校には行けないけれど、家で動画編集しているときがすごく楽しい。将来はテレビ局で働きたい！



名古屋市では、認知症の人本人が自分の経験を語り、認知症の理解を深める活動に力を入れています。しかし、コロナの影響でその活動機会が失われたことから、新たに動画での配信を企画しました。そこで、子ども・若者支援機関に相談し、動画編集が得意な不登校の学生を紹介してもらい、動画制作に協力してもらいました。学生にとっては社会参加の機会となり、市にとっては認知症の人の声を広く市民に届ける新たな機会になりました。

誰もが役割と生きがいを持ち続け、人や社会とつながり続ける

### 方向性 ③

## 外出できる環境づくり

おでかけ応援ボランティアの拡充と通所事業所と連携した移動サービスを進めます

健康状態が低下すると、「迷惑をかけたくない」との気持ちから、これまでの馴染みの暮らしを続けることを諦める人がいます。

「おでかけ応援ボランティア」を拡充するとともに、通所事業所と協力した移動サービスを導入し、安心して外出できる環境を整備します。



### 現状と課題

- 区社協では「おでかけ応援ボランティア」を実施し、本人が希望する外出（図書館、喫茶店等）をサポートしています。
- 区社協が行う「ほっこりサロン」では、ひとりでは参加できなくなった人を「おでかけ応援ボランティア」が送迎し、参加し続けられる環境を整備しています。
- これまでサロンや給食会に参加していた人が、健康状態の変化により参加できなくなることがあります。

## ワーキンググループの意見&実践事例

送迎によってサロンに通い続けることで、元気になった人がいる。生きがい支援にとって送迎は必要なサービス。

「フランス料理が食べたい」などの文化的な願いを叶えていきたい。

おでかけ応援ボランティアのニーズとして、通院の応援は頼みやすいが、余暇の応援は遠慮する人が多いのではないかと。

子育て中の親からは、運転中に子どもの隣に座ってほしいとの同乗ニーズはあると思う。



## 実施事業 4

## おでかけ応援ボランティアの拡充

多様な外出ニーズに対応できるよう「おでかけ応援ボランティア」の拡充を図ります。

## 事業の効果

諦めていた外出が可能になります。

## 5年後の姿（目標）

心身機能が変化しても、自分の行きたい場所に安心して外出できます。

## 戦略

広くボランティアを募集し、おでかけ応援ボランティアの活動者を増やします。サロン運営者やケアマネジャーからニーズを把握し、ニーズに応じたボランティア活動を行います。

## 不安

認知症になってから、日課だった図書館に行くのをやめました。大好きな本を読むのを諦めました。もう誰にも迷惑をかけたくないから。



不安を安心に変えていきたい

ボランティアさんと一緒に本を探せるのがうれしい。返却日も確認してくれるので、安心して図書館を利用できるようになりました。

## 安心



## 実施事業 5

## 移動サービスの実施

～通所事業所\*との連携～

通所事業所と連携して移動サービスを行います。学区推進協が主催する「給食会」に参加できなかった人を対象に送迎します。

## 事業の効果

給食会に参加し続けられます。ひとり暮らしでも「ひとりじゃない」を感じられます。

## 5年後の姿（目標）

送迎付き給食会を開催することで、参加し続けることができます。

## 戦略

瑞穂区内通所事業所と連携し、移動サービスの実施に向けて検討します。まずは、1学区でのモデル実施から始めます。

困りごとを抱えた人たちを受けとめ、支えあえる仕組みをつくる

## 方向性 4

# 予防的福祉の推進

住民同士、住民と専門職、専門職同士の連携をつなぎ合わせ、年齢やニーズの区別なく“丸ごと支援”できる仕組みをつくります

予防的福祉を推進し、個人や世帯の抱えている課題が深刻化する前に早期に発見し適切な支援につなぎます。

また、朝のあいさつ運動やコミュニティ食堂などを実施し、子どもと大人が双方向の信頼関係を築くことで、地域で子どもを支える取組みを進めます。



### 現状と課題

- 「ふれあいネットワーク活動」「地域支えあいマップづくり」「地域支えあい事業」を通して、地域住民同士の連携を進めています。
- 「自立支援型個別地域ケア会議\*」を実施し、多職種多機関ネットワークを構築しています。本人の「したいこと」を尊重し、馴染みの生活を続けられる支援を検討しています。
- 地域の社会資源（コンビニ、スーパー、喫茶店、金融機関、理美容院等）と専門機関が情報を共有して、支援につなげる機会はあまりありませんでした。
- 8050問題やヤングケアラーなど複合化した課題に向き合うためには、福祉分野に限らず、あらゆる分野の専門職と連携を進めていく必要があります。

### ワーキンググループの意見&実践事例

スーパーなどで、認知症を疑われる人が戸惑っている様子を見かけることがある。

定期的に行く美容院は、普段との様子の違いに気づきやすいのではないかな。

高齢者の多くは日中に買い物をしている。この時間帯に働く人たちに認知症サポーター養成講座\*ができるのと効果的。

SDGsの目標の視点であれば福祉以外の業種にも関わってもらえるのではないかな。

## 実施事業 6

## ふれあいネットワーク活動の拡充

～協力事業者との連携～

一人ひとりの生活に密着したコンビニやスーパー、理美容院や金融機関等に協力事業者となつてもらえるよう働きかけ、地域ぐるみの助けあい・支えあいを進めます。

## 事業の効果

見守りの場面を増やします。  
スーパーや理美容院など日常での見守りを増やすことで早期発見につなげます。

## 5年後の姿（目標）

個人や世帯の抱える課題が深刻化する前に、必要な支援につながっています。

## 戦略

「認知症の人にやさしい店認定店\*」にふれあいネットワーク活動への参加を促します。気になる人を社協やいきいき支援センターなど支援機関につなぐ仕組みを構築します。

## 実施事業 7

## 子どもを支える地域の取組みの推進

“子どもと大人のふれあい”や“子どもの社会参加”により、子どもを支える地域の取組みを進めます。

## 事業の効果

地域全体で子どもを支えます。  
地域の大人と子どもが関わる機会が増え、地域で子どもを見守り、支えていくことにつながります。

## 5年後の姿（目標）

子どもは大人に相談でき、大人は子どもの変化やSOSに気づき、受けとめることができます。

## 戦略

朝のあいさつ運動（弥富学区 P55参照）やコミュニティ食堂（陽明学区 P56参照）など、子どもを支える地域の取組みを推進します。

## 子ども食堂

子ども食堂は、利用する子どもの中の困っている誰かをさりげなく包み込み、そっと支える地域の大切な社会資源です。



困りごとを抱えた人たちを受けとめ、支えあえる仕組みをつくる

## 方向性 5

# 多様な相談経路の確保

集いの場（サロン、給食会等）での相談機能、つなぎ機能を向上します

ふれあい・いきいきサロンや給食会の相談機能、つなぎ機能を向上します。何気ない会話の中から困りごとに気づき、必要な相談機関やサービスにつなげることで、早期解決を図ります。



### 現状と課題

- サロン運営者研修会等では、冊子「参加者と運営者が一緒に創るサロン（瑞穂区社協作成）」を活用して、サロンの役割を伝えています。右の二次元コードから冊子をご覧くださいことができます。
- サロン運営者を対象に、「認知症サポーター養成講座」を開催し、認知症に対する理解を深めています。
- 子育て支援団体のネットワークである「さくらっこ♪」では、子育てに関する様々な活動を行っています。（P64参照）
- 区社協の学区担当職員がサロンに参加し、参加者からの相談に応じています。



## ワーキンググループの意見&実践事例



男性の参加が少ない。他の市町の取組みでは、1つのサロンで複数のプログラム（麻雀、将棋等）を設けるなど、参加しやすい工夫をしている。



サロンなど大勢いるところでは相談しづらい人もいる。おまけ応援ボランティアのような1対1なら相談しやすい。



サロン終了後の時間も大切。終わってから「〇〇さんが困っているらしい」と話を聴くこともある。



困りごとの聴き方として、ボランティアから「最近こんなことがあった。こんなことに困った」との話をする、「私もこんなことがあった」という展開になりやすい。雰囲気作りが大切。

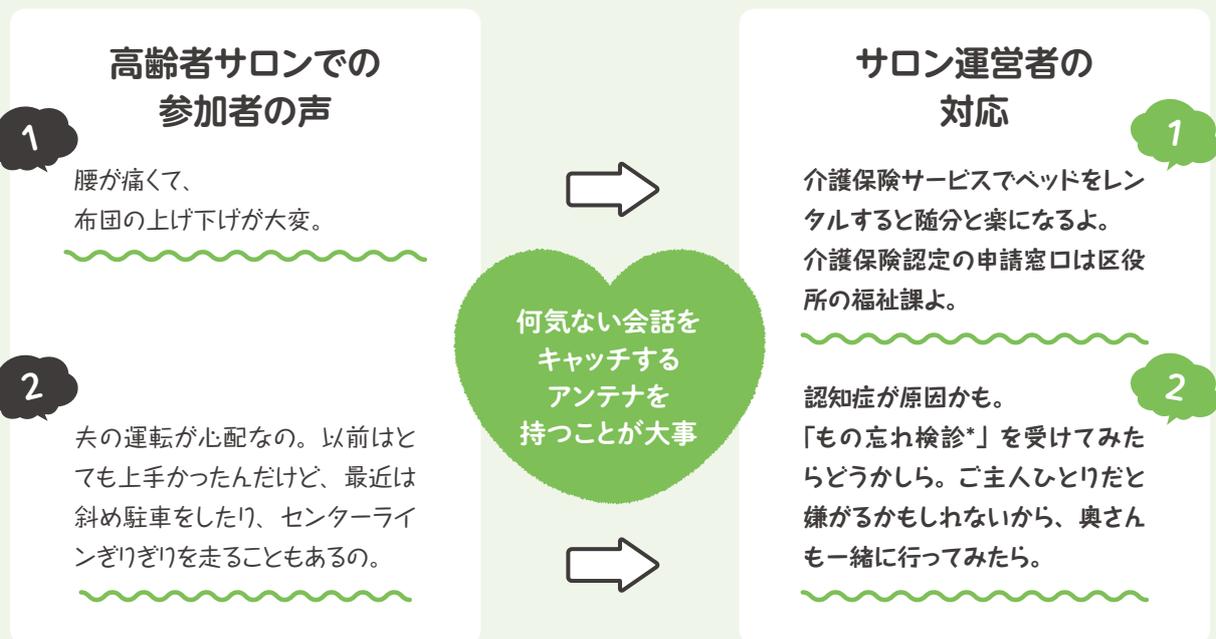
実施事業 8

# 相談しやすいサロンづくり

生活の困りごとや子育ての不安などをいち早く把握できるよう、相談しやすいサロンづくりに取り組みます。

<p><b>事業の効果</b></p> <p>何でも話せる場が増えます。 身近な人に相談ができ、適切な相談機関につながります。</p>	<p><b>5年後の姿（目標）</b></p> <p>サロンが相談窓口の役割を担っています。</p>
---	--

**戦略** サロン運営者を対象にした学習会や交流会を開催し、相談スキルを高めるとともに社会資源に関する情報提供を行います。



また、子育ての不安などを抱える親も増えています。子育てサロンには保健センターの保健師が参加し、様々な相談に応じています。

- 「寝る前にミルクを飲ませているけれど、その後、歯磨きをした方がいいの?」
- 「離乳食を始めようと思うけれど、どうしたらいいの?」
- 「同じ年齢の子に比べて、言葉が遅い気がするけど大丈夫かな?」

\*保健師の参加状況はサロンごとに異なります。



身近な場所で気軽に相談できるから安心!

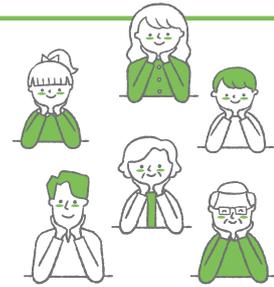
## 福祉のまちづくりを進める基盤をつくる

## 方向性 ⑥

## ひとりの声から始める地域づくり

障がい者、外国人など社会的少数者（マイノリティ）の声を聴き地域づくりに活かします

地域特性や現在の状況に応じた学区福祉計画の策定を進めることで、学区独自の福祉のまちづくりを実現します。計画を策定するにあたり、社会的少数者（マイノリティ）の声を反映する仕組みを検討します。



## 現状と課題

- 推進協調査の結果をみると、地域の特徴や課題、地域でやりたいこと、すでにやっていることなど、学区によって大きく異なっています。
- 「無線機を使った安否確認」、「町内対抗ソフトボール大会」、「コミュニティ食堂」、「障がい者、外国人との多文化共生」など独自の取組みがすでに一部の学区で進められています。
- すでに一部で行われている「活動」を他学区に展開する、または発展させる視点が十分ではありませんでした。
- 社会的少数者（マイノリティ）の声を聴き、地域づくりに活かす機会はありませんでした。

## ワーキンググループの意見&amp;実践事例

障がいのある人との話し合いの中で、「声を挙げやすくなった」との意見が出た。

「助けて」と言える人はよいが、言えない人に踏み込むことはできない。

高齢者いきいき相談室のケアマネジャーが地域の集まりに出張相談ができると良い。

陽明学区のコミュニティ食堂では、学校、PTA、学区など様々な団体が協働して開催している。そこでは、子どもが役割を持ち、活躍している。（P56参照）

汐路学区の赤ちゃんサロンは障がい者福祉施設の部屋を借りて開催。利用者親子が自然に関わる機会になっている。現在はコロナの影響により中止中。（P57参照）

## 実施事業 9

## 学区福祉計画の策定

学区の個性や特徴に応じた福祉のまちづくりを進めるため、学区福祉計画を策定し、学区ごとの地域共生社会像を描きます。

## 事業の効果

地域特性に応じたまちづくりが実現します。  
学区と区の福祉計画を連動させることで  
相乗効果が生まれます。

## 5年後の姿（目標）

学区の強みを活かした  
地域づくりが計画的に  
進んでいます。

## 戦略

推進協調査で把握した学区の強みを踏まえて、福祉計画の策定を進めます。



豊岡学区  
無線機を  
使った  
安否確認



中根学区  
子育て  
サロンで  
絵本の貸出



高田学区  
三世代  
交流会

## 実施事業 10

コミュニティソーシャルワーク（CSW）  
機能の強化

社協職員が、生活課題を抱える地域住民の個別支援に際して地域づくりも視野に支援するコミュニティソーシャルワーク（CSW）ができるよう、機能強化に取り組みます。

## 事業の効果

ひとりの声を起点とした地域づくりができます。  
その声の背景にいる同じ課題を抱える多くの人の支えになります。

## 5年後の姿（目標）

CSW機能を有する社協職員が  
個別支援と地域支援を一体的に  
行っています。

## 戦略

社協職員がCSWに関する研修を受講し、スキルアップに取り組みます。

## 福祉のまちづくりを進める基盤をつくる

方向性

7

## 福祉感の創造

当事者性（相手の立場で自分と向き合う心）を育み、  
ともに生きる関係性を構築し、地域貢献ができる人材を養成します

学校での学びを地域での実践に活かすサービスラーニングを用いた福祉教育を展開することで、住民主体の地域福祉活動を推進します。また、生涯学習における福祉教育も合わせて推進します。



手話入門講座

## 現状と課題

- 区社協では、小中学校で「高齢者疑似体験」や「ボッチャ交流会」を実施するとともに、名古屋市立大学や愛知みずほ短期大学の「地域参加型学習」をサポートしています。
- 学校での福祉教育に障がい者や高齢者が講師として参加し、学生と交流をすることで、前向きに生きる動機につながっています。
- 「手話入門講座」では、聴覚障がい者が講師となり、生きた手話を学ぶ機会となっています。講座終了後は、手話グループへの参加を勧めています。
- これからの福祉教育は、思いやりや優しさといった感情の醸成につなげながら、地域づくりにまで展開する取組みが求められています。

## ワーキンググループの意見&amp;実践事例

相手を知らないから傷つけてしまう。福祉教育を子どもから大人まで誰でも受けられるようにすることで、他者理解を広げる機会にできないか。

中学生は子ども会から外れて、部活や塾に忙しい。学校の成績に「地域活動」という項目を入れることを関係機関に働きかけたらどうか。

本当の教育は「みんな違って、みんないい」という考え方を教えることではないだろうか。今は以前よりも多様性の考え方が浸透している。

## 実施事業 11

# サービスラーニングの手法を取り入れた 福祉教育の実施

小学生から高校生までの各年代に応じた「地域貢献学習（サービスラーニングやボランティア活動など）」に取り組み、学びと実践の両面から福祉感を深めます。

## サービスラーニングとは

学校での学びを活かして地域貢献活動を行うことで、自分たちのまちをよくしたいとの思いを育む過程のことです。

### 事業の効果

地域貢献できる人材を育てます。  
そうした人材が地域共生社会の土台となります。

### 5年後の姿（目標）

若い世代が  
地域福祉活動に参加し、  
貴重な戦力になっています。

## 戦略

学校、学区、区社協が話し合う機会をつくり、サービスラーニングの必要性を伝えます。

## あなたなら、どう答えますか？

いざ、当事者になった時、自分の価値観と相手の立場の間で目の前の現実をどう受け入れるかを悩むことがあると思います。そうした葛藤を経て、選択する行動によって福祉感は醸成されます。



ひとり暮らしのお隣さんは認知症みたいだな。火事が心配。  
本当は施設に入所してほしいけれど、どうしたらいいの？

成績が良ければ、幸せになれるの？  
僕は勉強ができないから幸せになれないね。



次ページには、いろいろな意見が掲載されています。

私たちは  
こう考えます!

ひとり暮らしのお隣さんは認知症みたいだな。火事が心配。  
本当は施設に入所してほしいけれど、どうしたらいいの?



自分を隣人の立場に置き換えて想像してみました。病気のため、「自分」というものが日々奪われていく不可解さの中で、困惑しているのはご本人です。

その不安な気持ちを受け止められるのは、日頃から何かと親しくしているご近所さんです。

(策定作業委員)

お隣への声掛けを増やしたらどうでしょうか。ご近所の協力だけでは一人暮らしが難しいと感じたら、民生委員さんやいきいき支援センターなどに相談したらどうでしょうか。

(策定作業委員)

まずは認知症の症状、火事の危険性がどの程度あるのかを客観的に把握するために関係機関やご本人と積極的にコミュニケーションをとり状況を共有することが大切です。

その上で火災検知カメラの設置など可能な対策を優先に進めたらどうでしょうか。

(NPO法人代表)

ご心配に思ったきっかけはありますか。ご本人の思いをお聴きしながら、ご本人の困りごとやご近所の方が心配していることの解決に向けて、一緒に考えながら、見守りの仕組みを検討します。

(いきいき支援センター職員)

私たちは  
こう考えます!

成績が良ければ、幸せになれるの?  
僕は勉強ができないから幸せになれないね。



偏差値や勉強の可不可と幸せの価値観は対照になく比較もできないので、より多様な時代になった現代においてそのような思い込みは無意味です。大切なのは、自分の価値観や生き方に基づいて幸せを追求すること!

(NPO法人代表)

学歴は幸福を測るものではないと思います。あなたが幸せな時はどんな時ですか?人が決めた幸せの価値観よりも、「私の」幸せはかけがえのないものですよ。

(策定作業委員)

最近の高学歴の人はAIの答えとその理論をそのまま覚えるだけ。社会に出ている色々な人と上手く折り合えるのか疑問に思います。知識も大事ですが、協調性ももっと大事。学歴だけで人の優劣を決めるのは良くないことです。

(策定作業委員)

高学歴の人だけが幸せになれる世の中なの?それは違うと思う。

何を幸せと感じるかは人それぞれだから。勉強ができる、できないは、幸せになるために大切な条件じゃない。

(策定作業委員)

# ボッチャはすべての垣根を超えて、 誰でもできるスポーツ



ボッチャという競技は、年齢、性別、障がいのあるなしにかかわらず、  
すべての人が一緒に競い合えるスポーツです。

(一般社団法人日本ボッチャ協会ホームページより)

瑞穂区では、学校、地域、施設  
など様々な場所でボッチャが行  
われています。

(写真は、障がい者福祉施設、  
小学校でのボッチャの様子です)



ヨーロッパで生まれたボッチャは、  
重度脳性麻痺者もしくは同程度の四  
肢重度機能障がい者のために考案  
されたスポーツで、パラリンピック  
の正式種目です。



## 愛知・名古屋2026アジアパラ競技大会

令和8年(2026年)10月に、アジアパラ競技大会が行われます。  
45の国と地域が参加する大会に多くの国の人たちが来日することが  
予想されます。

アジアパラ競技大会の開催意義には「多様性を尊重し合う共生社  
会の実現に貢献する」と位置付けがされています。本計画を通して  
ボッチャを推進することで、アジアパラ競技大会に向けた機運を醸  
成し、また、瑞穂区における障がいへの理解促進や障がいのある  
人の社会参加を促進する機会とします。



## 福祉のまちづくりを進める基盤をつくる

## 方向性 ⑧

## 災害時における支援体制の整備

災害時要援護者の支援や被災者の多様なニーズに応えるため、専門職との連携強化に取り組みます

災害時における支援体制を整備することで、多数の被災者から寄せられるニーズに寄り添い、適切で効果的な支援を行います。また、災害時の支援拠点である災害ボランティアセンター機能を強化します。



## 現状と課題

- 災害ボランティアセンターを運営する区社協、区役所、みずほ災害ボランティアネットワークが合同で研修や定例会を行うなど、平時から連携強化に取り組んでいます。
- みずほ災害ボランティアネットワークは学区防災訓練への協力や防災に関する啓発を行っています。
- 災害ボランティアセンターの主業務のひとつに、被災者のニーズ把握とその対応のためのボランティアコーディネーターがありますが、傾聴力やアセスメント力の向上を目的とした研修は十分ではありません。
- 災害時要援護者を支援するために医療、福祉の専門職との連携が必要ですが、十分に連携ができていません。
- 災害ボランティアセンターの区民の認知度は低く、その周知も十分ではありません。

ワーキンググループの  
意見&実践事例

介護力が不足する世帯への支援が必要。日ごろからケアマネジャーと民生委員・児童委員、地域等の連携が大事になる。

災害ボランティアセンターの立ち上げ訓練に専門職が参加できるとよいのではないか。

災害時要援護者の半数以上が障がいのある方。ご近所さんでは避難誘導等の対応が難しい。専門職に関わってほしい。

大人用おもむつや缶詰など二次備蓄品を備えておくことは重要。スーパーなどの倉庫を借りることはできないか。

実施事業 12

# 災害ボランティアセンターの機能強化

医療・福祉の専門職との連携を進めることで、災害時要援護者への支援力と被災者支援におけるアセスメント力の強化に取り組みます。

**事業の効果**

要援護者を含めた被災者支援の実効性が高まります。  
住民同士の情緒的な支援と専門職の技術を組み合わせることで、被災者の安心が深まります。

**5年後の姿（目標）**

ボランティアと専門職がそれぞれの強みを活かした被災者支援ができています。

**戦略**

区社協、区役所、ボランティア、専門職が合同で防災訓練を行います。

名古屋みずほ災害ボランティアネットワークは、平成19年（2007年）に災害ボランティア・避難所リーダー養成講座修了者で結成された団体で、現在28名が所属しています。災害時には区災害ボランティアセンターを運営し、平時には区民の防災・減災の意識向上に取り組んでいます。

**平常時の活動** 楽しく防災について学び活動フィールドを広げています。

防災・減災の普及啓発活動      防災の学び

防災イベントの開催・参加      行政・社協との連携

**災害時の活動** ボランティアセンターの運営など、災害ボランティアコーディネーターとして活動します。

災害ボランティアセンターの運営      避難所運営のお手伝い      復旧活動の支援



## 4 進行計画と実施圏域

# 理念 あなたとわたしが 支えあうまち

### 目標 1

誰もが役割と  
生きがいを持ち続け  
人や社会と  
つながり続ける

#### 方向性 1

町内単位の  
地域福祉活動の推進

実施事業／概要  
 事業 1 瑞穂区地域福祉活動発表会の開催  
 区民や社会福祉関係者に対して、地域福祉活動を発表します。

事業 2 町内対抗ポッチャ大会の開催  
 町内でチームを結成し、町内対抗のポッチャ大会を開催します。

#### 方向性 2

地域の多様な構成員の  
参画

実施事業／概要  
 事業 3 地域づくりのプラットフォームの形成  
 ～子どもから高齢者まで丸ごと支援～  
 業種や職種の分野を超えて、福祉について話し合う協議の場をつくります。

#### 方向性 3

外出できる  
環境づくり

実施事業／概要  
 事業 4 おでかけ応援ボランティアの拡充  
 多様なニーズに応えられるよう、ボランティア活動の拡充を図ります。

事業 5 移動サービスの実施～通所事業所との連携～  
 通所事業所と連携した移動サービスに取り組みます。

### 目標 2

困りごとを抱えた  
人たちを受けとめ  
支えあえる  
仕組みをつくる

#### 方向性 4

予防的福祉の  
推進

実施事業／概要  
 事業 6 ふれあいネットワーク活動の拡充  
 ～協力事業者との連携～  
 コンビニ、スーパー、理美容院など協力事業者とともに、地域ぐるみの見守りを行います。

事業 7 子どもを支える地域の取組みの推進  
 あいさつ運動など、子どもと大人のふれあいを起点に、地域全体で子どもを支えます。

#### 方向性 5

多様な相談経路の確保

実施事業／概要  
 事業 8 相談しやすいサロンづくり  
 サロンの相談機能、つなぎ機能の向上を図り、早期発見・解決をします。





# 瑞穂 ～「おはよう」や「ありがとう」でつながる、広がる、ふくしの輪～

	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
モデル実施	→	本格実施・(随時)会場規模の拡大			
	地域福祉活動の情報収集				
		モデル実施	(随時)実施学区の拡大		
	ポッチャ審判員等運営者の確保				

	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
プラットフォーム体制づくり	→	プラットフォームの実施			
	参加企業等への周知・協力依頼				

	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
	ニーズ把握・サービスの開発				→
	実施				
モデル実施	→	本格実施・実施学区の順次拡大			

	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
	協力事業者との連携				
	協力事業者のネットワークの構築				
	推進協間での地域の取組みの共有				
	子ども食堂との連携によるニーズ把握				

	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
	サロン運営者研修会・交流会を通じた質の向上・生活支援連絡部会での仕組みの検討				

# 理念

# あなたとわたしが 支えあうまち

## 目標 3

福祉の  
まちづくりを進める  
基盤をつくる

### 方向性 6

ひとりの声から始める  
地域づくり

### 方向性 7

福祉感の創造

### 方向性 8

災害時における  
支援体制の整備

#### 実施事業／概要

・事業 9 学区福祉計画の策定  
地域特性に応じた地域福祉活動を進めるための学区福祉計画を策定します。

・事業 10 コミュニティソーシャルワーク（CSW）機能の強化  
社協職員が個と地域の一体的支援を行うことで、ひとりの声を起点とした地域づくりを進めます。

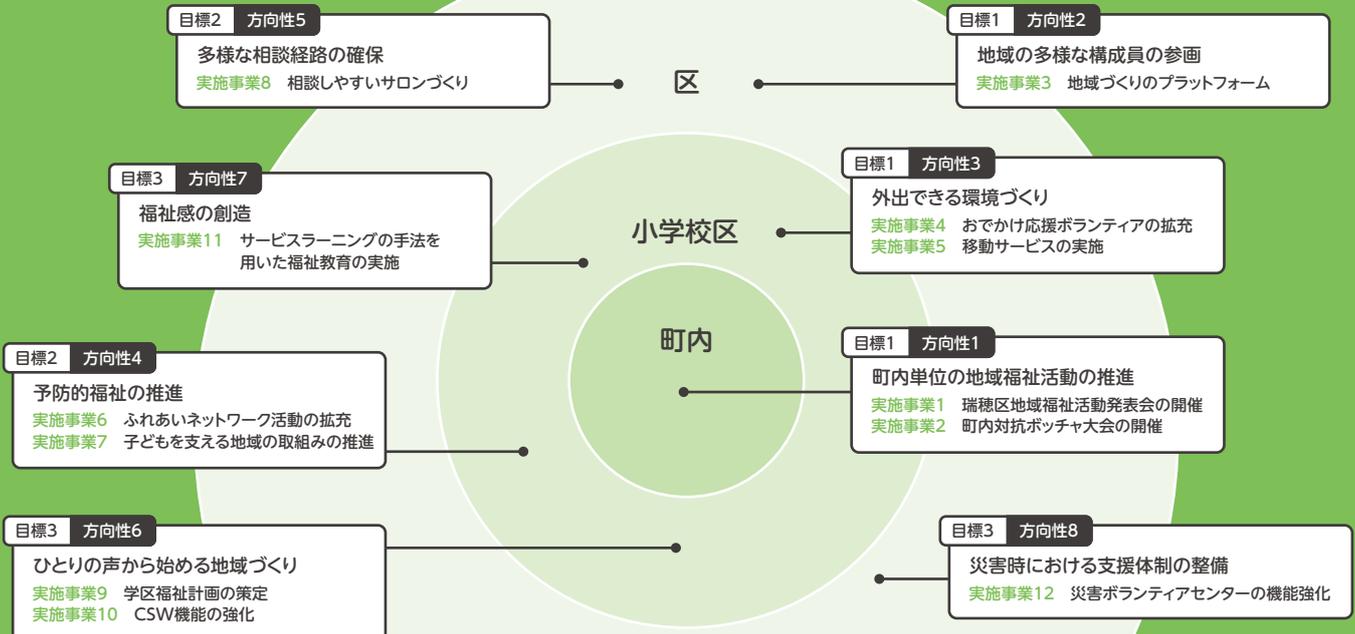
#### 実施事業／概要

・事業 11 サービスラーニングの手法を用いた福祉教育の実施  
サービスラーニングを導入し、学びと実践の両面から福祉感を育みます。

#### 実施事業／概要

・事業 12 災害ボランティアセンターの機能強化  
災害ボランティアセンターの運営力強化と、災害時要配慮者の支援に関わる専門職との連携を図ります。

## 実施圏域のイメージ





# 瑞穂 ～「おはよう」や「ありがとう」でつながる、広がる、ふくしの輪～

	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
1学区策定	→		順次拡大 →		
推進協研修会等で共有	→				
重層的支援体制整備事業の個別支援	→				
ケース検討会の実施	→				

	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
モデル実施	→		順次拡大 →		
推進協研修会等で周知	→		学校、学区を対象とした報告会の開催 →		

	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
災害ボランティアセンターの設置・運営訓練の実施	→				
専門職への周知、訓練への参加等連携強化	→				





## 第 4 章



# キラッと光る☆お宝発見

～強みを活かした小学校区別地域福祉活動～

## 1 地域福祉推進協議会調査

### 調査の概要

本調査はグループインタビューで行いました。

#### ①調査目的

第5次活動計画の策定にあたり、地域の現状を把握することを目的に行いました。

#### ②調査対象

10学区推進協（※1学区はアンケート調査を実施）

#### ③調査期間

令和4年（2022年）9月～12月

#### ④調査内容

人材、事業、ネットワーク、共助

#### ⑤主 催

区社協、瑞穂区役所、瑞穂保健センター

#### ⑥財 源

赤い羽根共同募金配分金\*



あい 愛ちゃん と きぼう 希望くん  
©中央共同募金会

### 調査の特徴

#### ●活動の背景を把握する

活動の背景にある「住民ニーズ」や「実施体制」、「連携状況」などを探ることに留意しました。

#### ●具体的に把握する

“強み”の横展開を最大限活かせるよう、事例により具体的な社会資源を把握することに留意しました。

#### ●多面的な視点で把握する

インタビューガイドを作成し、多面的な視点（連携、資源、環境等）で聞き取ることに留意しました。

## 2 各学区の取組み

学区名	タイトル	ページ数
御劔学区	連携を「協力関係」に変えた御劔	P47
高田学区	「助け合う高田」を合言葉に	P48
堀田学区	多彩な場！みんなが集い、笑顔になる堀田	P49
穂波学区	ビジョンを持って、つながり続ける穂波	P50
井戸田学区	顔の見える関係でチームアプローチ井戸田	P51
瑞穂学区	誰かが気にかけてくれる、ひとりでも安心感を持てる瑞穂	P52
豊岡学区	福祉×防災=安心して暮らせる豊岡	P53
中根学区	生涯を通して、地域ぐるみで支え合う中根	P54
弥富学区	ご近助で、温かく見守りあう弥富	P55
陽明学区	コミュニティ食堂で子どもたちが活躍する陽明	P56
汐路学区	一人ひとりの声を大切に、誰ひとり取り残さない汐路	P57

# 御劔学区

## 連携を「協力関係」に変えた御劔

### 強みの概要

大学と「協力3.0」と呼ばれる有効な連携の仕組みを構築し、継続的な「協力関係」を深めています。



#### ◆隔年主催

毎年開催する茶話会（高齢者と学生の交流）を学区と大学が隔年交代で主催しています。

#### ◆異文化交流

学区と子ども会が主催する餅つき大会に民族衣装を着た留学生が参加し、異文化交流を行っています。

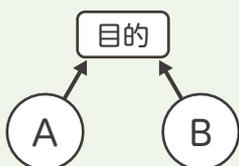
#### ◆社会参加の場

大学構内にある農園で、見守り対象者と地域住民と一緒に農作業をすることで自立を促しています。

### 協力の3タイプ

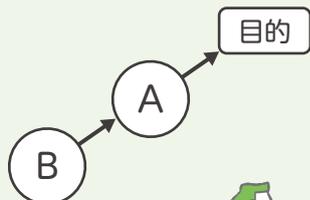
#### 協力1.0

ともに目的が同じで、同じように活動する



#### 協力2.0

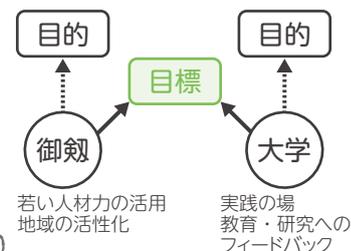
ともに目的が同じだが、学区（大学）に大学（学区）が協力する



※出典「協力のテクノロジー（学芸出版社）」より一部修正

#### 協力3.0

目的は違うが、同じ目標を達成することで各目的を達成する



### 価値の考察 ～なぜ、「強み」なのか～

連携する上で大切なことは、連携相手の立場で考えること。また、継続性の担保となる仕組みを構築することです。

**御劔学区**では、学生のニーズに合わせた地域行事を企画し、隔年主催という仕組みによって継続できる協力体制を構築しています。

大学と学区では連携目的が異なるため、どちらかがどちらかに協力する「協力2.0」タイプになりがちですが、御劔学区では共通の目標を「お互いが主人公になれる」としたことで「協力3.0」を実現しています。

# 高田学区

## 「助け合う高田」を合言葉に

### 強みの概要

相談窓口が身近にあり、専門職との関係がしっかりと構築されているため、「問題発生から相談まで」「相談から支援まで」の間に空白の期間が生じにくく、早期発見、早期解決を可能にしています。

### 相談から支援までの流れ

#### ①相談

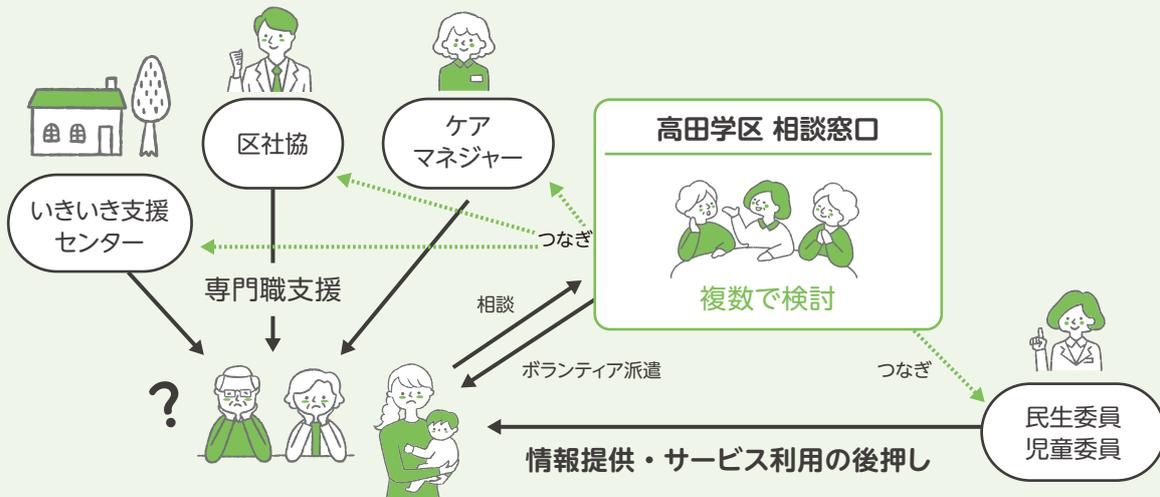
相談窓口では、複数で相談内容や対応策を検討します。

#### ②支援

ボランティアで対応できない場合は、専門職への支援に移行します。

#### ③後押し

支援を受けたがらない人に対して声かけを行い、支援につながる後押しをします。



### 価値の考察 ~なぜ、「強み」なのか~

これからの福祉にとって大切な視点は「予防」です。

そのためには、問題が深刻化し、解決が困難な状態となる前に早期に発見して支援につながる事が大切になります。

**高田学区**では、住民による相談窓口をコミュニティセンターに開設することで、相談者の心理的、物理的ハードルを下げています。

また、相談内容によっては、区社協やいきいき支援センター等の専門職につなげることで早期解決を可能にしています。

# 堀田学区

## 多彩な場！みんなが集い、笑顔になる堀田

### 強みの概要

性別や年齢などを問わず、いろいろな人が参加できる多彩な集いの場があります。人と人とのつながりが育まれ、豊かな地域コミュニティが構築されています。

#### ◆みんなで目標に向かって、喜びを共有できる場

グラウンドゴルフは男女を問わず参加者が多く、全員で目標に向かって練習をしています。

#### ◆健康づくりと情報交換の場

ラジオ体操で身体と心の健康づくりを進めています。

#### ◆特技を活かして活躍できる場（12か所のサロン）

子育て、カラオケ、麻雀、ゲーム、楽器演奏など多彩なサロンがあります。

#### ◆あいさつから顔馴染みへ、ご近所の輪が広がる場

ゴミステーションが井戸端会議の場になっています。

#### ◆ホッと一息、安穏の場（その後の喫茶店）

会合やグラウンドゴルフの後にちょっと一服。

ホッとした時間に本音がこぼれます。



子育てサロン



### 価値の考察 ～なぜ、「強み」なのか～

右のグラフは「社会的関係と死亡リスク」の分析結果です。

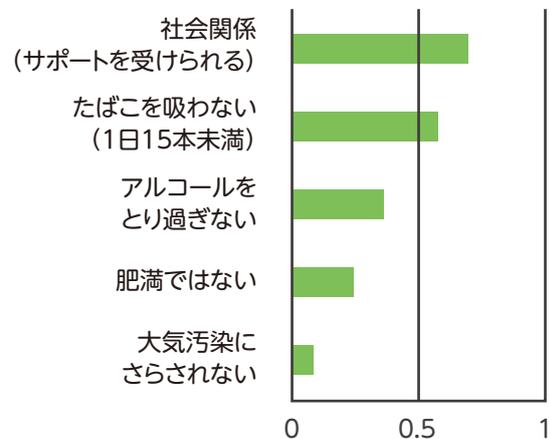
良好な社会関係が長生きの要因であることがわかります。

**堀田学区**では、身近な場所に誰もが参加できる場があります。

さらにそこが、本人のできないことをサポートする場ではなく、本人のやりたいことが実現できる場になっています。

それは、一人ひとりの自己肯定感の向上につながっています。

### 長生きできる人



出典「メタ分析レビュー ジュリアンホルト・ランスタッド」

# 穂波学区

## ビジョンを持って、つながり続ける穂波

### 強みの概要

それぞれの地域福祉活動をビジョンを持って進めることで、意欲のある人が現れ、これまで難しいとされていた集合住宅や町内会での見守りを実現しています。



盆踊りは  
あらゆる世代が  
一堂に顔を合わせる  
イベント

防災の起点は  
備えや訓練ではなく、  
人とのつながり

楽しいことが  
インセンティブになれば、  
人は集まる



#### ◆町内会での見守り

「町内に暮らす人は町内会が守る」をビジョンに掲げ、ひとり暮らしの人に会長、副会長などの連絡先を記したバッジを配布しています。

#### ◆集合住宅での見守り

地域支えあいマップづくりで住民の情報を共有することで、集合住宅内の見守りを進めています。



### 価値の考察 ～なぜ、「強み」なのか～

穂波学区の地域福祉活動は「人と人とのつながり」を共通理念としています。

盆踊りは「あらゆる世代の人が一堂に顔を合わせる唯一のイベント」をビジョンとして、コロナ以前は5か所で開催をしていました。

また、地域支えあいマップづくりは「防災の起点は備えや訓練ではなく、人とのつながり」をビジョンとして、毎年、町内単位で実施をしています。

それぞれの活動を行うにあたり、しっかりとしたビジョンを持ち、それを伝え続けることで、新しい仲間が現れ、人が集まり、ビジョンを実現しています。

# 井戸田学区

## 顔の見える関係でチームアプローチ井戸田

### 強みの概要

地域支えあい事業に学区独自の新しい仕組みを組み合わせることで、「身近な住民同士の支え合い」を実現しています。



#### ◆町内会長と相談者との接点（図①）

町内会長が現地調査を通して相談者の生活状況を把握することで、その後の見守りにつなげています。

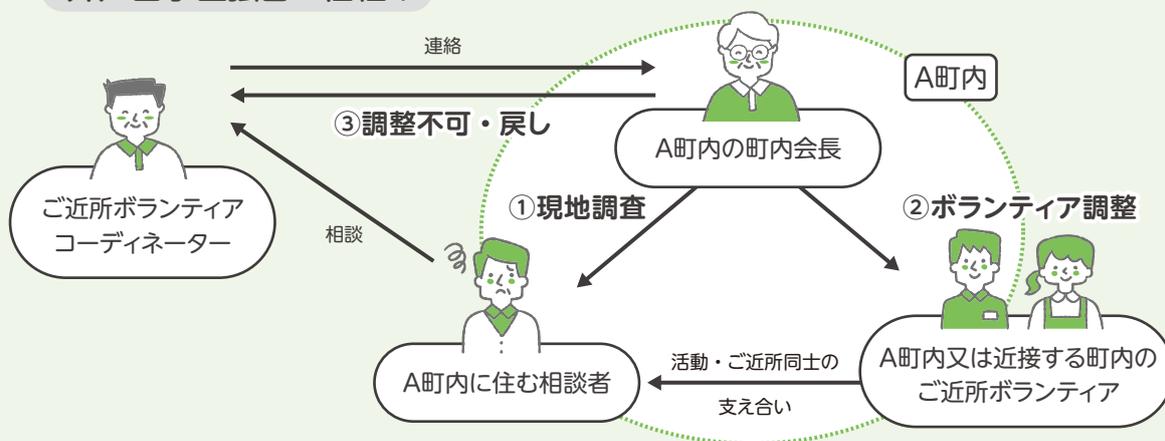
#### ◆無理のない柔軟な仕組み（図②）

近接する町内をグループ化することで、町内ごとのボランティア数の差を勘案した無理のない体制を構築しています。

#### ◆責任を分散するフォロー体制（図③）

町内で調整ができなかった場合、ご近所ボランティアコーディネーターに戻すことで、過度な責任を負うことのない体制を構築しています。

### 井戸田学区独自の仕組み



### 価値の考察 ~なぜ、「強み」なのか~

「あの人に任せておけば大丈夫」「あの人がいなくなったら、この活動は続けられない」というように特定の個人しかやり方を知らない状況になること（属人化）が地域行事では多くあります。

井戸田学区では地域支えあい事業に学区独自の仕組みを組み合わせました。その仕組みをメンバーに伝えることで事業目的や活動内容が浸透し、属人化の解消につながっています。

# 瑞穂学区

## 誰かが気にかけてくれる、ひとりでも安心感を持てる瑞穂

### 強みの概要

学区単位だけではなく、町内単位で様々な活動を行うことで、顔馴染みの関係ができています。



#### ◆直接の声掛けと送迎支援

ひとり暮らしの人にサロンや給食会への参加を直接呼びかけています。また、一人では外出が難しい人の送迎を行っています。

#### ◆日ごろの挨拶が不安を安心に変える

保健環境委員がゴミ収集場所で「元気になっていますか?」とひとり暮らしの人に声をかけています。ご近所に気にかけてくれる人がいると感じるだけで、「一人で暮らしているけれど、ひとりじゃない」と安心できます。



#### フォーマルな資源

・介護保険サービス  
・障害者総合支援法  
・区役所  
・保健センター  
・いきいき支援センター

◎制度、専門機関〈市区単位〉

#### インフォーマルな資源

・サロン  
・給食会  
・見守り  
・生活支援

◎つなぎ役〈学区単位〉  
推進協、ボランティア等による生活支援

#### ナチュラルな資源

・挨拶  
・声掛け  
・付添  
・体操  
・立ち話

◎地域の土台〈町内単位〉  
暮らしの中から生まれる  
支え合い



### 価値の考察 ~なぜ、「強み」なのか~

瑞穂学区では身近な生活範囲である町内を単位とした活動が充実しているため、ご近所同士で顔馴染みの関係ができやすく、他者の課題を“他人事”ではなく“自分事”として共感できる風土ができています。

地域の社会資源を「フォーマルな資源」、「インフォーマルな資源」、「ナチュラルな資源」に分類することができますが、ご近所づきあいや友人同士など「ナチュラルな資源」が地域づくりの基盤になります。

瑞穂学区には「ナチュラルな資源」がしっかりと根付いており、また、それを育む仕組みがあることで、お互いがお互いを支え合う源になっています。

# 豊岡学区

## 福祉×防災=安心して暮らせる豊岡

### 強みの概要

日常の見守り活動である「ふれあいネットワーク活動」を災害時の安否確認に活かすため、支援者と要援護者の3つの距離を縮め、福祉と防災を一体的に進めています。

#### ◆心理的距離（信頼関係）

見守り対象者宅に定期的に訪問し信頼関係を築くことで、個人情報取り扱いの同意を得ることができ、学区独自の「災害時要援護者リスト」を作成しています。

#### ◆物理的距離（ご近所での見守り）

年4回行う「地域支えあいマップ」に町内会長、組長、民生委員・児童委員などが参加することで、町内単位、組単位での見守りができています。

#### ◆時間的距離（時間の効率化）

無線機で安否確認を行っています。災害時にはタイムリーに避難所情報や被害情報を共有することができます。



#### 平時の見守り

- 日常の見守り活動
- 定期的な訪問
- 安否確認名簿更新
- 安否確認訓練



#### 災害時の安否確認

- 安否確認
- 災害情報の伝達
- 避難場所への誘導
- 救出救助の協力



信頼関係・ご近所同士・時間を短縮できる手段

### 価値の考察 ~なぜ、「強み」なのか~

「1995年兵庫県南部地震における火災に関する調査報告書」によると、死亡者の約9割が発災から14分以内で亡くなり、生き埋めや閉じ込められた97.5%の人が自力もしくはご近所の人に救出されています。

**豊岡学区**では、町内単位や組単位で見守り体制を構築することで、心理的距離、物理的距離を縮めるとともに、無線機を活用して時間の効率化を図っています。福祉を充実させ、それを土台にして防災の取組みにつなげることで、災害時における実践的備えを実現しています。

# 中根学区

## 生涯を通して、地域ぐるみで支え合う中根

### 強みの概要

生涯を通して、地域ぐるみ、家族ぐるみ、また、個人でも参加できる場があり、連帯感や所属感を得られやすい地域です。



#### ◆幅広い年齢層が参加するソフトボール大会

40年以上続いているソフトボール大会。現在、16町内中13町内がチームを結成し、総当たり戦を行っています。メンバーは20歳代から80歳代で約240名が登録しており、子ども同士、大人同士、家族同士のつながりの場になっています。

#### ◆グループLINEで適材適所 楽しみながら活動できる子育てサロン

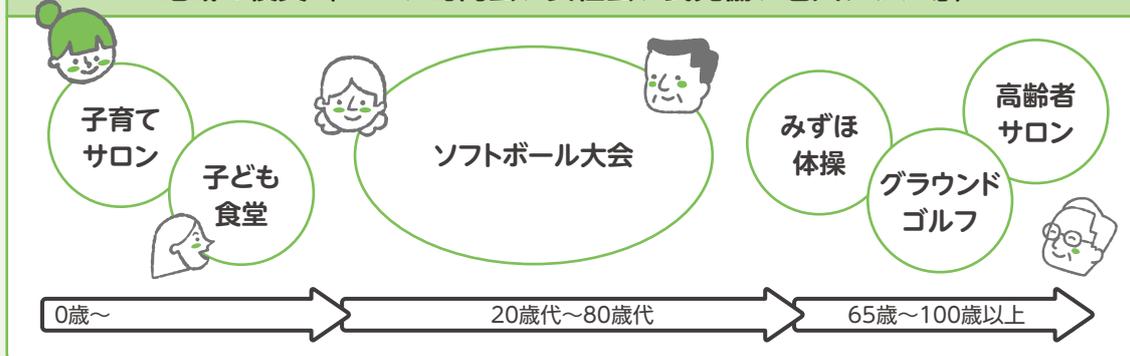
グループLINEを活用しスタッフが気軽に意見交換をしています。当日は適材適所で楽しみながら活動し、サロンの日に参加できないボランティアもグループLINEで相談に加わり、活動を後押ししています。

#### ◆参加者が主人公になれる高齢者サロン

参加者が講師役となることで、スタッフと参加者が一緒に創るサロンになっています。



### 地域の役員（PTA、町内会、女性会、民児協、老人クラブ等）



### 価値の考察 ～なぜ、「強み」なのか～

人は常に「連帯感や所属感（他者とのつながり、自分の居場所が確保できているという実感）」を求めていると言われています。

**中根学区**では、子育てサロンや子ども食堂、ソフトボール大会や高齢者サロンなど、生涯のどのステージにおいても、誰もが所属できる場所が地域の中にあります。

その連帯感や所属感が住民の主体性を育み、地域行事に受け身ではなく、自発的に参加する人が多い学区になっています。

# 弥富学区

## ご近助で、温かく見守りあう弥富

### 強みの概要

地域で支援を必要とする人を見守る「ふれあい協力員（見守りボランティア）」も、活動を通して様々な人たちと出会い、視野が広がり、自己成長につながっています。



#### ◆ 困りごとをみんなで解決

年3回開催する研修会では、活動時の困りごと（ひきこもり、災害時対応など）を共有し、次回の研修会のテーマにすることで、みんなで解決策を話し合います。

#### ◆ 「要援護者一覧」を作成。日ごろの見守りを災害時に活用

普段の見守りを通して把握した困りごとや健康状態などの情報をもとに「要援護者一覧（約130人）」を作成しています。リスト化、標準化された情報が日ごろの見守りだけでなく緊急時にも役立ちます。

#### ◆ 毎朝の登校時の見守り。挨拶から心の通う交流に発展

普段と様子が違う子どもには「どうしたの?」と“声かけ”や“気かけ”をしています。また、児童との温かなやりとりがボランティア活動のやりがいになっています。

ある朝、泣きながら登校する女子児童がいました。声をかけると「大好きな紫色のハンカチを落した」と答えました。ボランティアらで探しても見つかりません。代わりに…と、ボランティアが別の紫のハンカチを、学校を通じて児童へ届けました。

すると翌朝、その児童より、「探してくれてありがとう。（お礼がしたいけれど）この手紙がせいいっぱいです。」と心のこもったお礼の手紙がボランティアに届きました。



### 価値の考察 ～なぜ、「強み」なのか～

「昨年、入院をしました。退院後、高齢者宅に訪問した際、『最近、顔を見ないので心配していた』と声をかけてもらい、実は私が高齢者の皆様に見守られていたと実感しました。」  
こうしたエピソードを共有することで、ボランティア活動の視野が広がり、ボランティア自身の成長につながっています。

**弥富学区**では、支援が必要な人とともにボランティアも大切にすることで、支え、支えられる関係を超えた温かな絆が生まれています。

# 陽明学区

## コミュニティ食堂で子どもたちが活躍する陽明

### 強みの概要



毎月1回、小学校で開催しているコミュニティ食堂「FUTABUCKS CAFE」は、学区、学校、PTA、子ども会などがそれぞれの強みを活かしつつ、緩やかにつながることで、誰のものでもない“私たちの居場所”になっています。



#### ◆親子で楽しみを共有できる場

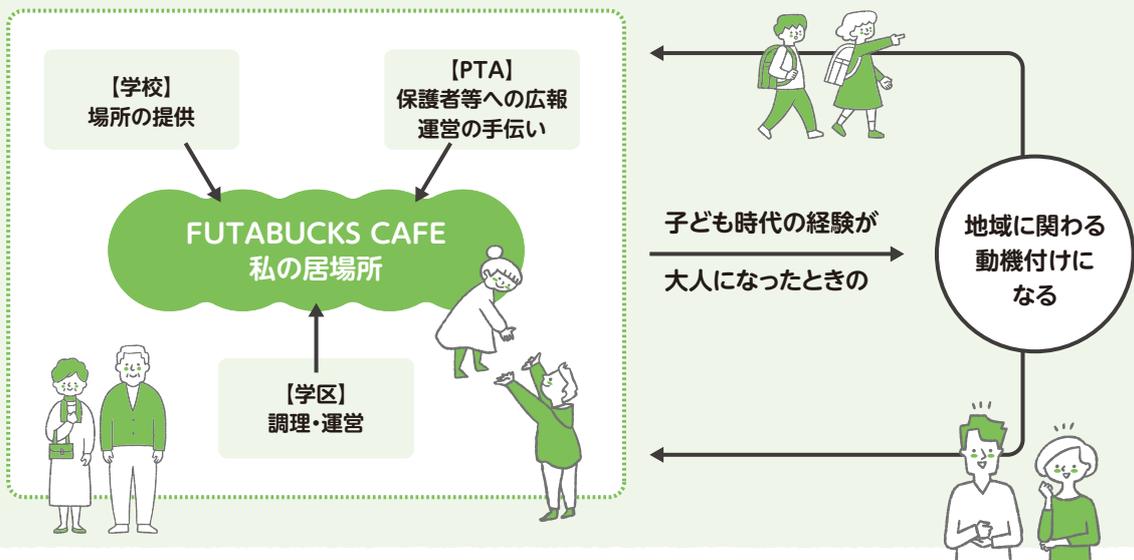
子どもが楽しみにしているから、親も関わるようになっていきます。

#### ◆役割を持てる場

子どもたちが受付や後片づけを担当することで、就業体験の場となっています。

#### ◆第3の居場所

安心できる居場所となり、気軽に相談できる地域の大人に出会えます。



### 価値の考察 ～なぜ、「強み」なのか～

陽明学区では、FUTABUCKS CAFEを立ち上げるにあたり、「どんな場所にしたいのか」といった事業目的を検討しています。

子ども食堂では貧困対策としての役割が期待され、生活困窮世帯だけを対象とした取組みになりがちですが、より広く門戸を開いた取組みにしたいとの思いから、子どもから大人まで誰でも参加できるコミュニティ食堂として始めました。

地域のコミュニケーションの場をつくるという事業目的が共有されているからこそ、多くの子どもたちが参加し、活躍でき、安らぎ、相談のできる、貴重な社会資源になっています。

# 汐路学区

## 一人ひとりの声を大切に、誰ひとり取り残さない汐路

(無関心の壁を取り払い、多様性をお互いさまとして、顔見知りの輪が広がり、挨拶が「こだま」するまちづくり)

### 強みの概要

ひとりの声を起点とした地域づくりや、障がい者や外国人と自然に出会える場づくりを通して、多文化共生を実現しています。

「しおじネイバースデー」(10月第一日曜日)の制定

➡ 顔見知り100人大作戦



多様性・多文化共生

#### ◆障がい者理解を深める講座を開催

「(外出すると、)目を背けられる。」との障がい者の声を受け止め、その声を起点に、「何が問題なのか」「どうしたら解決できるのか」といった課題の具体と解決策を検討し、障がい者自身の講話を含む講座を開催することで、誤解や偏見を払しょくしていきます。

#### ◆障がい者福祉施設で赤ちゃんサロンを開催

障がい者と地域住民が自然に交流できる場づくりができています。現在は、コロナの影響により中止しています。

各国の民族舞踊との相互交流

➡ リトアニアフォークダンスと日本盆踊り(第一弾)



リトアニアとの文化交流

外国人との母国語での挨拶交流

### 価値の考察 ~なぜ、「強み」なのか~

認知症支援において、厚生労働省が「認知症施策推進総合戦略」として進める新オレンジプラン(2015年)以降、「本人の視点の重視」が施策の重要な柱として位置付けられています。この考え方は、認知症に限らず、障がい者や外国人などにも当てはまります。本人の声を聴き、知恵を出しあい、必要な支援を生み出すことは、「誰もが安心して暮らせるまちづくり」の実現につながります。

汐路学区が行った「障がい者を理解する講座」は、本人の声を起点にし、地域に浸透していた課題認識の具体を見つけ、適切な解決策に取り組んだ実効ある実践例と言えます。

# 小・中・高校生 まちづくりワークショップ 報告レポート



## 「カードを使ったシチュエーショントーク」

裏返されたカード（「いつ」「どこで」「だれが」「どんな」）を選び、カードに書かれたシチュエーションで、『自分ならどうするのか』について話し合いました。



**（どこで）** スーパーで、  
**（だれが）** 車いすユーザーが、  
**（どんな）** 10kgのお米を買いたい

でも、お米を持ってなくて困っているとき、  
あなたならどうする？  
また、あると便利だと思うサービスとは。

- ★車いすユーザーがスーパーを利用しやすいように、スロープなどを付けて段差をなくす。
- ★米や水、トイレトペーパーなど重たい物やかさ張る物は商品棚に「引換券」を用意し、レジで商品と交換できるようにする。
- ★困ったときに店員さんに伝えやすいように、「誰でも安心して利用できるお店」マークをつくる。

**（どこで）** 地下鉄で、  
**（だれが）** 杖を利用する高齢者が、  
**（どんな）** 電車に乗りたいたいけれども満員で乗れない

そんなとき、あなたならどうする？  
また、あると便利だと思うサービスとは。

- ★時間に余裕がある時は、次の電車に乗り換える。
- ★高齢者専用車両をつくる。
- ★駅員さんがサポートする。



**（どこで）** ○●霊園に、  
**（だれが）** 車いすユーザーが、  
**（どんな）** お墓参りに行きたい

という希望を叶えるために、  
あなたならどうする？  
また、あると便利だと思うサービスとは。

- ★ヘルパーやボランティアにお墓参りに行ってもらい、オンラインでつなぎ、画面上で見てもらおう。
- ★学校や職場で福祉教育を行い、高齢者や障がい者は将来の自分であることが理解できれば、誰もが誰かを助けられる社会になる。



## 〈参加者のエピソード〉

バスの中で切符を買うのに戸惑っていると、後ろに並んでいた女性から「遅れるじゃないの。そんなに時間がかかるのなら降りなさい」と言われた。  
焦る私に対し、周りの人は「ゆっくりでいいよ」「大丈夫だよ」と声をかけてくれた。  
イラつく人はいなくならないと思うけど、優しく声をかけたり、見守ってくれる人が増えるといいな。



## 第 5 章



# むすびに

～ 2040年を見据えて、今、取り組むこと～

厚生労働省の人口動態統計から予測される2040年の地域像と「地域包括ケア研究会報告書－2040年に向けた挑戦－(平成28年厚生労働省 老人保健健康増進等事業)」を踏まえ、今、求められている地域福祉活動について整理しました。

## 1 2040年の地域像と、今、求められる地域福祉活動

### 2040年の地域像

### 地域福祉活動

#### ◆ 団塊世代が85歳以上になります。

- ・ 85歳以上の要介護認定率は50%を超えます。
- ・ 死亡者数がピークに達します。

#### ◆ 介護保険制度が重度化に移行します。

- ・ 軽度者の在宅サービス利用等が難しくなります。
- ・ ケアプランの有料化や利用者負担の増加など、気軽に利用できるサービスではなくなる恐れがあります。

#### ◆ 高齢になる障がい者が増えます。

- ・ 障がい者の高齢化が進み、親亡き後の支援が必要な障がい者が増えます。

#### ◆ 共同住宅の高齢化が進みます。

- ・ 地域とつながりを持たない高齢者が増える可能性があります。

#### ◆ 団塊ジュニア世代が65歳以上になります。

- ・ 非正規雇用やフリーランスが多く、年金の給付水準の所得代替率が低下した状態で65歳以上になるため、就労が生活の中心になります。
- ・ 未婚や子どものない世帯が増えます。
- ・ デジタルツールを使いこなせる世代が増えます。

#### ◆ 単独世帯が増えます。

- ・ これまで様々な相談を受け止める機能を担っていた家族のいる人が少なくなり、孤独・孤立が高齢者世代だけではなく、あらゆる世代で増えます。

1

予防  
(一次・二次)

1

予防  
(ゼロ次)

2

社会変化に  
合わせた  
事業展開

3

身近な  
相談窓口の  
整備

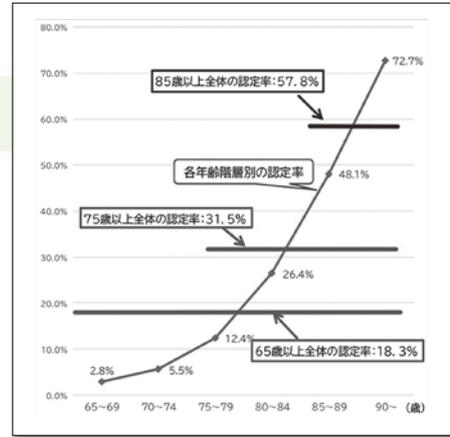
## 2 今後の地域福祉活動

2040年の地域像を見据えて、特に求められる推進協活動は①予防②社会の変化に合わせた事業展開③身近な相談窓口の整備、そして、変化を見通し、学区が目指す将来像を共有する④学区福祉計画の策定の4つの取組みです。

### 1 予 防

2040年までの最大の環境変化は要介護者数の増加です。要介護率は80歳から84歳で30.1%、85歳から89歳で52.3%と急上昇します。

要介護リスクが高まる年齢を後ろ倒しする予防の推進は、地域福祉活動の最大の目標になります。

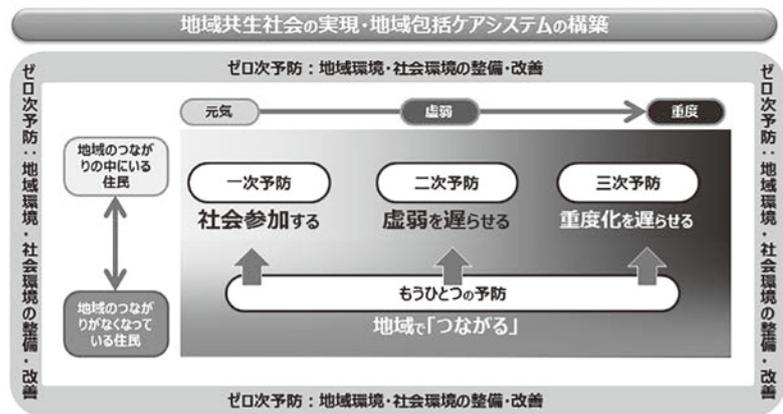


出典「介護保険事業状況報告（厚生労働省）、人口統計（総務省）」より厚生労働省作成

#### ○予防ともうひとつの予防

予防には、交流や運動をすることでフレイル予防を進める「一次予防」と「二次予防」があります。

また、もうひとつの予防として、住民同士がつながる姿を「ゼロ次予防」としています。



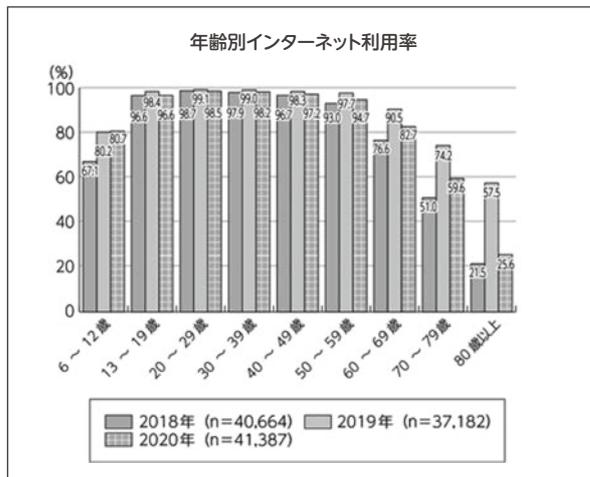
出典「三菱UFJリサーチ&コンサルティング「〈地域包括ケア研究会〉-2040年に向けた挑戦-」(地域包括ケアシステム構築に向けた制度及びサービスのあり方に関する研究事業)、平成28年度厚生労働省老人保健健康増進等事業、2017年」

学区	取組内容
堀田学区	カラオケや麻雀、ゲームなど、やりたいことが見つかる多彩なサロンがあります。また、グラウンドゴルフやラジオ体操など日常的に体を動かせる場があります。
穂波学区	地域支えあいマップづくりを通して、住民の情報を共有し、集合住宅内の見守りを行っています。
瑞穂学区	サロンや給食会を3か所に分けて行い、多くの人に通える工夫をしています。また、心身機能が変化しても参加し続けられるよう声掛けや送迎を行っています。
豊岡学区	ふれあいネットワーク活動に町内会長、組長、民生委員・児童委員などが参加して、町内単位、組単位の見守りを行っています。
中根学区	子育てサロンからソフトボール大会、高齢者サロン、グラウンドゴルフ、みずほ体操など生涯のどのステージにおいても地域の中に所属できる場所があります。

## 2 社会の変化に合わせた事業展開

令和3年度版情報通信白書によると、年齢別のインターネット利用率は、60代で82%、70代で60%となっています。

年齢別のSNS利用率は、60代で60%、70代で47%となっています。

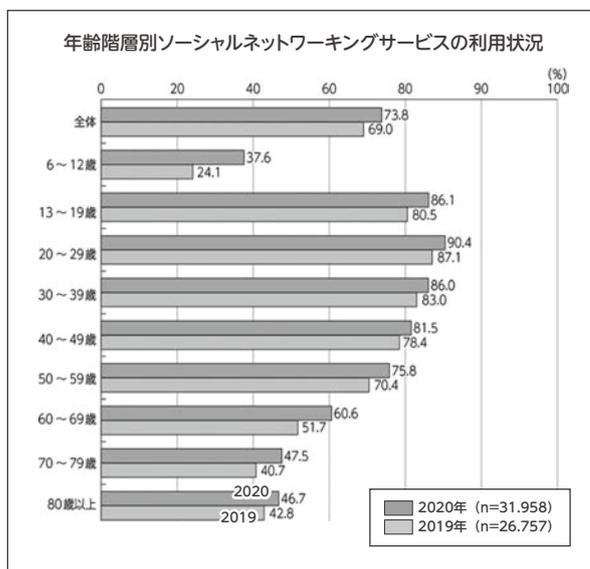


### ○オンラインによる地域行事、相談支援

2040年代の高齢者はデジタルツールを使いこなせる世代になると見込まれます。

「オンラインによる地域行事」を行うことで、外出が困難な人や時間的な制約がある人も参加しやすくなり、オンライン上でのつながりを創出することができます。

また、「オンラインによる相談・情報提供」の実施により、相談への心理的ハードルが下がり、早期相談、早期解決につながります。



出典「令和3年度版情報通信白書（総務省）」

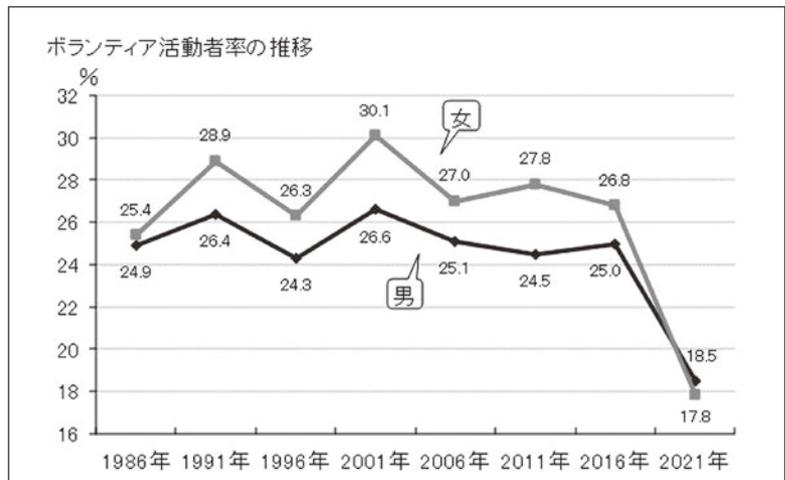
学区	取組内容
堀田学区	ホームページを充実し、学区情報の発信に力を入れるとともに、高齢者を対象としたスマホ教室を行い、情報受信の強化を予定しています。
井戸田学区	子育てサロンなどでは、LINEやチャットを活用し、情報発信をしています。
豊岡学区	学区でグループLINEを作り、書類など写真を撮って添付することでスムーズに情報共有ができています。また、町内単位で無線機を持ち、災害時の安否確認に活用をしています。
陽明学区	高齢者サロンにおいてパソコン教室やスマホ教室を行っています。

### ○様々な立場の人が地域の担い手となれる仕組みづくり

コロナ禍により激減した地域福祉の担い手であるボランティアの数は、一定の持ち直しが期待されるものの、減少傾向が続くと見込まれます。

1970年代生まれの多くの人が2040年には、これまで地域の担い手として役割を果たしてきた主な年齢層（60代～70代）に到達します。この世代は非正規雇用やフリーランスが多く、60代以降も引き続き、就労が生活の中心になることが予測され、地域の担い手の即戦力として期待をすることは難しい状況になることが予想されます。そのため、様々な立場の人が担い手になれる仕組みを構築する必要があります。

例えば、子どもが企画段階から関わり、役割を持つことができる地域行事には、保護者の協力を得られやすく、これまでとは違う年齢層が新たな担い手として活躍が期待されます。



出典「社会生活基本調査報告（総務省）」

学区	取組内容
御劔学区	大学と連携し、学生と高齢者等の交流を進めています。また、学区と大学が隔年で主催者となることで、継続的な協力体制を構築しています。
弥富学区	毎朝の登校時の見守りを通して、子どもとの温かな交流を育んでいます。
陽明学区	コミュニティ食堂「FUTABUCKS CAFE」には、子どもたちが受付や後片づけを担当し、活躍できる役割があります。また、子どもとその親と一緒に参加し、楽しみを共有できる場所になっています。

### ○趣味やペットを通じた仲間づくり

2040年の高齢者層は未婚や子どものいない世帯が多くなることが見込まれ、趣味やペットを通じて形成されるネットワークで知り合った仲間が最も信頼できる相談相手になり得ると推測されます。

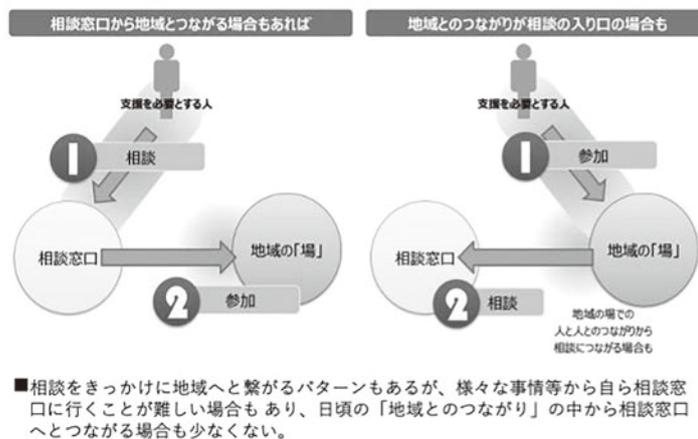
学区	取組内容
井戸田学区	犬の散歩をし“ながら見守り”をしています。



### 3 身近な相談窓口の整備

地域の身近な場所に相談窓口があり、地域情報を提供することが孤立・孤独の予防に重要です。

しかし、相談窓口で相談することに敷居の高さを感じる人もいるため、地域の集いの場などで、普段馴染みの人とおしゃべりから相談につながる経路を確保することも大切です。



学区	取組内容
高田学区	地域の身近な場所に相談窓口があり、顔馴染みの人が相談に応じたり、声掛けをしています。
汐路学区	ひとりの声を起点に地域支援を進めています。その声から課題の具体を見つけ、解決策に取り組んでいます。

### 4 学区福祉計画の策定

学区推進協は毎年、総会を開催し、事業計画・予算を策定します。策定にあたり、学区が目指す地域像を話し合うことで、中・長期的な視点が生まれます。

学区	取組内容
穂波学区	地域に対するビジョンを持つことで、新しい担い手が現れ、難しいとされる集合住宅での見守りや町内会での見守りを実現しています。
陽明学区	新規事業を立ち上げるにあたり、事業目的を共有しています。そのため、学区、学校、PTA、子ども会などが緩やかにつながりながら、それぞれの力を発揮して、“私たちの居場所”を実現しています。



## 障がい者と子育て世帯を ネットワークで支えています



### 瑞穂区障害者関係団体連絡会

「瑞穂区障害者関係団体連絡会（略して瑞障会（ずいしょうかい）」は、障がいのある人もない人もともに生きるために、福祉のまちづくりを進めることを目的とした団体です。

瑞穂区内の障害者関係団体相互の連帯、交流を通して、福祉の啓発、普及を図る活動をしています。

令和5年度に初めて、瑞穂区民まつり2023にブース出展し、手話体験、点字体験、車いす体験、知的・発達障がいの擬似体験、ポッチャ体験を通して、障がい者理解を深める普及・啓発を行いました。

区民まつりでの瑞障会のみなさん



手話体験

### 瑞穂区子育てネットワーク さくらっこ♪

「さくらっこ♪」は瑞穂区内の育児サークル関係者、主任児童委員、保育園・幼稚園、NPOなどが集まり、保健センター、区役所等の公所と協力しながら運営している子育て支援団体のネットワークです。子育て支援イベントや子育てグループのことが一目でわかるホームページの運営と子育て家庭向け交流会の企画運営、そして子育て支援関係者が顔を合わせて情報交換する連絡会議を開催しています。



<https://sakurakko.info/> 事務局：瑞穂区社会福祉協議会





# みんなで作くりあげる



## これからの瑞穂区の福祉

瑞穂区では、計画期間を5年間とする活動計画を平成16年（2004年）に初めて策定して以降、第4次に至るまで活動計画を更新し、福祉のまちづくりを進めてきました。今回は、第5次となる「みずホッとプラン」を策定。中心的な役割を担われた5人のリーダーに1年間を振り返っていただき、計画に込めた想いや区民の皆様に伝えたいメッセージについて語っていただきました。

### 福祉は自分事

一計画を通して、区民の皆様に伝えたいことを教えてください。

**近藤** エネルギーを込めて作った計画がどのように区民の皆さんに届くのか。作った人と受け取る人の間に温度差があってはいけないと思います。これから、どのように届けるのが重要なことやと思います。

**小出** 社会福祉協議会があることを区民の皆さんには伝えたい。健康とか介護保険だけではなく、家や仕事のことなどを相談できる機関があることを知ってほしいなと思います。

**田沢** ボランティアなど福祉に関わることで、これからの自分の生きていく姿を教えてもらった気がします。誰もが年を重ねることですから。

**鈴木** みんなが集まる場所をつくりたいと思います。参加する、しないの問題はありますが、集まる場所があるということが大事だと思います。

**西崎** 福祉は自分事だということ。福祉に関わることは、自分の心へのご褒美となり、自分を大切にすることにもつながってきます。人間的に広がりのある人になっていくだろうと思います。

### 障がい者の声に応えられる地域へ

一印象に残っていることはありますか。

**西崎** 印象的だったのは当事者ミーティング（「障がいのある人本人ミーティング」・「障がい者家族ミーティング」）。障がいのある人もその家族も、自分の意見が言える社会になっていると感じました。一方で、我々、社会の側がその声に追いついていないということが非常に印象に残っています。（P8・P16参照）

**小出** 今は中止していますが、子育てサロンを障がい者福祉施設で開催したことがありました。自然に障がいのある人と交流できてよかったですと思います。これからも温かい目を向けてくれるんじゃないかな。



委員長  
近藤京子氏



副委員長  
小出弘子氏



WGリーダー  
西崎久芳氏



WGリーダー  
鈴木ゆずる氏



WGリーダー  
田沢節子氏

## 子どもも主人公になれる地域へ

**鈴木** 堀田学区ではコミセン祭り&三世代交流の開催を予定しています。子ども会が積極的に関わってくれて、子どもも主役になって交流できる機会をつくりたいと企画段階から参加しています。本当の意味での三世代交流ができるといいなと思っています。

**西崎** 汐路学区では子ども会を老人会が運営する仕組みを検討しています。老人会の活性化と子ども会の課題解消を同時にやろうという発想です。

**田沢** 「小中高生のまちづくりワークショップ」の子どもたちの発言を見て、とても可能性を感じました。先日、高校生が町内会長になったニュースを見ましたが、若い世代の個性を活かしたまちづくりをしていきたいと思いました。(P58参照)

## 「助けて」と言える地域へ

一計画の理念に「支えあうまち」を掲げています。これは「支える側」と「支えられる側」を区別しないということです。しかし、「助けて」と言えないことで「支えられる側」に上手になれない人も多いようです。

**近藤** 小さい時から「人に迷惑をかけるな」と言われて育つでしょ。そういう環境にいると、「助けて」と言う文化が育たないと思うの

です。いざ、助けが必要になったとき、例えば、組単位でご近所ボランティアを決めて、その人に相談できるようにすれば、「助けて」と言いやすくなると思います。

**西崎** まず、やりたいことを見つけることが大事。やりたい、でも、できない時に初めてSOSを出せると思います。

## アジアパラ競技大会をきっかけに 飛躍する瑞穂区へ

—5年後、どんな瑞穂区になってほしいですか。

**鈴木** 瑞穂区は文教地区。保育所から大学までたくさんの子どものいるので、子ども時代に福祉が学べる環境があるといいなと思います。また、2026年にはアジアパラ競技大会があります。それもきっかけになるのではと思っています。

**西崎** アジアパラ競技大会には大勢の外国人、障がいのある人が瑞穂区に來ます。その時、海外も含めて他の地域からリスペクト（尊敬）される瑞穂区になってほしいと思っています。そのためにも、計画を着実に実行し、日頃からあいさつが飛び交う瑞穂区になることを切に希望します。

**近藤** 健常者も障がい者もみんなが同じ平らな高さのところにおれたら、どんなにええやろなと思うね。

**(目的)**

**第1条** 瑞穂区における地域福祉活動を計画的に推進することを目的として、第5次地域福祉活動計画（以下「活動計画」という。）を策定するため、社会福祉法人名古屋市瑞穂区社会福祉協議会（以下「区社協」という。）に、第5次地域福祉活動計画策定作業委員会（以下「策定作業委員会」という。）を設置する。

**(協議事項)**

**第2条** 策定作業委員会は次の各号について協議する。

- (1) 活動計画の策定に関する事項
- (2) 活動計画の推進に関する事項

**(組織)**

**第3条** 策定作業委員会は、次の各号に属する策定作業委員35名以内で構成し、区社協会長が委嘱する。

- (1) 学識経験者
  - (2) 社会福祉関係者
  - (3) 社会福祉活動に関心のある者（公募委員を含む）
  - (4) 関係行政機関職員
  - (5) その他会長が必要と認める者
- 2 策定作業委員会に委員長及び副委員長を各1名置き、策定作業委員の互選により選出する。
- 3 委員長は、策定作業委員会を代表し、会務を掌理する。
- 4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代理する。

**(ワーキンググループ)**

**第4条** 策定作業を円滑かつ効率的に進めるため、必要に応じてテーマごとの検討を行う「ワーキンググループ」を設置することができる。

**(任期)**

**第5条** 策定作業委員の任期は、活動計画の策定をもって終了する。

**(会議)**

**第6条** 策定作業委員会の会議は、委員長が招集し、議長となる。

- 2 策定作業委員会は、必要に応じて関係者の出席を求め、その意見を聞くことができる。

**(庶務)**

**第7条** 策定作業委員会の庶務は、区社協事務局において処理する。

**(雑則)**

**第8条** この要綱に定めるもののほか必要な事項は、区社協会長が別に定める。

**附 則**

この要綱は、令和5年4月1日から施行する。

**附 則**

この要綱は、令和5年11月1日から施行する。

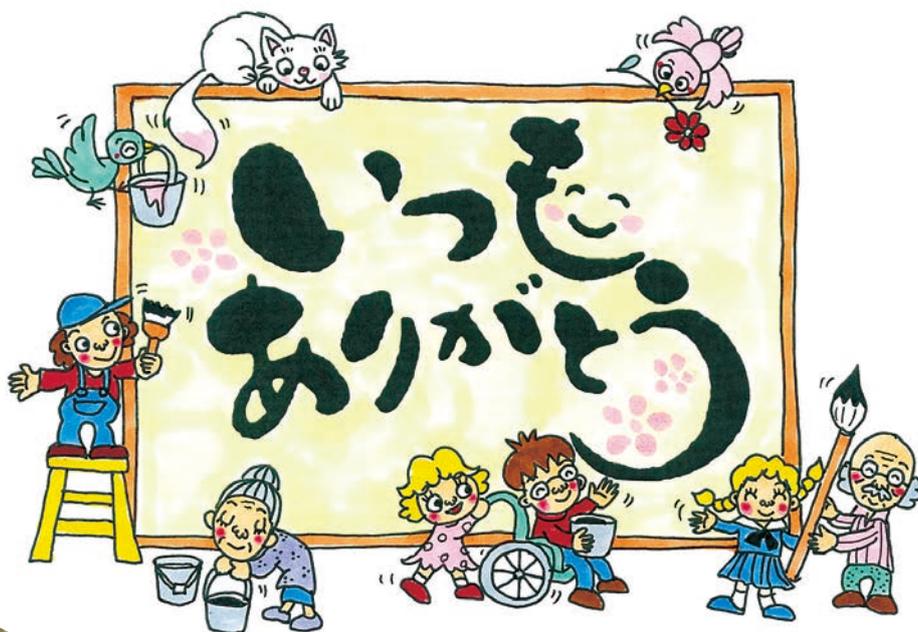
(令和5年11月1日)

番号	役職	氏名	所属	WG
1	委員長	近藤 京子	瑞穂区障害者関係団体連絡会 会長 地域ボランティアグループかがやき 代表	1
2	①リーダー	田沢 節子	瑞穂区社会福祉協議会 副会長 民生委員児童委員連盟瑞穂区 支部長	1
3	②リーダー	鈴木 ゆずる	堀田民生委員児童委員協議会 会長	2
4		杉本 久美子	瑞穂区女性団体協議会 会長	
5		吉田 克己	御劔学区区政協力委員会 委員長 ご近所ボランティアコーディネーター (御劔)	
6		菅沼 美江	御劔学区地域福祉推進協議会 会長 ご近所ボランティアコーディネーター (御劔)	1
7		中島 要	高田学区区政協力委員会 委員長	
8		今井 紀昭	井戸田民生委員児童委員協議会 会長 ご近所ボランティアコーディネーター (井戸田)	1
9		木下 道子	瑞穂民生委員児童委員協議会 会長	2
10		早瀬 和江	豊岡民生委員児童委員協議会 会長	2
11		杉江 勇夫	弥富民生委員児童委員協議会 会長 ご近所ボランティアコーディネーター (弥富)	2
12		田村 征男	中根民生委員児童委員協議会 会長	1
13		星川 涼子	中根民生委員児童委員協議会 主任児童委員	1
14		伊藤 和明	陽明学区地域福祉推進協議会 会長	3
15		鈴木 葉子	陽明民生委員児童委員協議会 会長	3
16	③リーダー	西崎 久芳	汐路学区区政協力委員会 委員長	3
17		藤井 香	汐路民生委員児童委員協議会 会長	3
18	副委員長	小出 弘子	瑞穂区社会福祉協議会 監事 前民生委員児童委員連盟瑞穂区支部長	3
19		大脇 さよ	地域ボランティアグループかがやき 福祉学習サポーター ほっこりサロンボランティア おでかけ応援ボランティア	1, 3
20		大田 康博	認知症予防リーダー ほっこりサロンボランティア おでかけ応援ボランティア	1
21		兼松 久美子	おでかけ応援ボランティア	2
22		赤堀 和枝	おでかけ応援ボランティア はつらつ長寿推進事業コスモスボランティア	2
23		宮地 佳子	瑞穂区手をつなぐ育成会 会長	
24		丹 有子	瑞穂区障害者基幹相談支援センター センター長	2, 3
25		加古 瑞紀	特別養護老人ホームなごやかハウス岳見 施設長	2
26		早川 嘉彦	堀田デイサービスセンター居宅介護支援事業 管理者 福祉学習サポーター	3
27		鈴木 綾子	ブラザー販売株式会社経営企画部	
28		加藤 純子	陽明茶論「ごいっしょに」 代表	1
29		竹田 徳則	名古屋女子大学医療科学部長	2
30		伊藤 知恵	名古屋みずほ災害ボランティアネットワーク 代表	3
31		苗村 悟	瑞穂区役所福祉部長 瑞穂区社会福祉協議会 総括理事	
32		古畑 史郎	瑞穂区役所民生子ども課長	
33		玉井 重行	瑞穂区役所福祉課長	
34		畑中 恵巳子	瑞穂保健福祉センター保健予防課長	

## 用語解説

用語	解説
<b>赤い羽根共同募金配分金</b>	瑞穂区民が協力した募金の一定割合を、瑞穂区の地域福祉で活かすことを目的とした配分のことです。その配分金を活用し、高齢者、障がい、子どもの各分野で活動している団体に助成しています。
<b>SDGs</b>	2015年9月の国連サミットで採択され、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標のことです。(Sustainable Development Goals)
<b>拠点型サロン 瑞穂ほっこりサロン</b>	いつでも誰でも気軽に参加できる居場所のことで、瑞穂区在宅サービスセンターで月3回開催しています。
<b>子ども食堂</b>	食を通じた子どもの居場所です。利用する子どもの中の困っている誰かをさりげなく見守り、そっと支える社会資源です。
<b>コミュニティソーシャルワーク</b>	生活課題を抱える個人や家族への“個別支援”と、それらの人々が暮らす地域の環境を整備する“地域支援”を統合的に実践する援助技術のことです。
<b>サービスラーニング</b>	学校で学んだ知識・技能を地域課題の解決に活かすことを通して、社会的役割を実感することを目的とした教育方法のことです。
<b>災害ボランティアセンター</b>	被災者のニーズ（要望、困りごと）に合わせてボランティアを紹介する等の調整を行い、ボランティアが円滑に活動できるように支援するための拠点です。瑞穂区では在宅サービスセンターに設置し、区社協、区役所、名古屋みずほ災害ボランティアネットワークの三者で運営します。
<b>社会的孤立</b>	家族や地域社会との交流がとても乏しい状態を指します。単身世帯、未婚者・離別者、暮らしが苦しい人、健康状態がよくない人が社会的に孤立しやすいと言われています。
<b>社会福祉士</b>	国家資格です。福祉の相談援助に関する専門知識・技術を有し、福祉や医療の相談援助の場において重要な役割を担います。瑞穂区社協職員の8割が本資格を有しています。
<b>重層的支援体制整備事業</b>	高齢、障がい、子育て、生活困窮といった対象別・分野別の既存の制度を超えた重層的な支援体制を構築する事業のことです。瑞穂区では令和6年4月から始まります。
<b>自立支援型 個別地域ケア会議</b>	高齢者がいつまでも元気に自立した生活を営むことができるよう、地域の様々な専門職が集まって、ケアマネジャーが作成するケアプランを検討する会議です。
<b>生活支援連絡部会</b>	高齢者サロン、外出支援、家事支援、介護者支援などの生活支援・介護予防サービスの開発を進めることを目的とした会議です。
<b>ダブルケア</b>	育児と介護が同じ時期に生じる境遇のことです。
<b>多文化交流</b>	異なる文化や価値観を持つ人と交流をすることです。
<b>地域共生社会</b>	制度・分野ごとの縦割りや「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えてつながり、地域をともに創っていく社会のことです。
<b>地域支えあい事業</b>	高齢者などのちょっとした困りごと（ゴミ出し、草取り、電球の取り換えなど）を住民同士で解決する活動のことです。
<b>地域支えあいマップ</b>	支援が必要な人と見守る人を地図上に線でつなぎ関係性を見えるようにします。瑞穂区ではすべての学区で実施しています。
<b>地域福祉推進協議会</b>	誰もが安心して自分らしく暮らすことのできる福祉のまちづくりを、地域住民が主体となって進めることを目的として、小学校区ごとに組織されている任意団体です。瑞穂区ではすべての学区で設置されています。

用語	解説
通所事業所	高齢者の孤立感の解消や心身機能の維持、家族の介護の負担軽減などを目的とした通いの場です。
名古屋市社協 地域福祉推進計画	地域福祉を推進する団体として、市域全体の地域福祉推進の方針や方策を定めます。名古屋市では「地域福祉計画」と「地域福祉推進計画」とを一体的に策定しています。
名古屋市地域福祉計画	名古屋市が策定する行政計画です。地域福祉推進のための役割を明確にするとともに、市のあるべき地域福祉の方向性を提示します。
認知症サポーター養成講座	認知症に対する正しい知識を持ち、地域で認知症の人やその家族に対してできる範囲で手助けする認知症サポーターを養成する講座です。
認知症の人にやさしい店認定店	認知症サポーターが従業員にいたるなど一定の要件を満たして、瑞穂区いきいき支援センターに登録をしたお店のことです。
8050問題	80代の親が50代の子どもの生活を支えるために経済的にも精神的にも強い負担を請け負うという社会問題のことです。
福祉感	相手の立場で自分と向き合い、利他的な行動をすることで育まれる福祉の心を指します。幸福感や達成感のように行動を伴うことで得られる感覚です。
福祉教育	自分が暮らす地域の生活課題に気づき、解決に向けた行動をとることのできる力を育むことです。瑞穂区では、小中学校を中心に高齢者や障がい者の講話や交流、福祉体験（車いす、手話、点字など）を行っています。
プラットフォーム	地域課題の解決に向け、同じ地域の「暮らす人」と「働く人」がそれぞれの得意とする能力（スキル）や人脈（ネットワーク）を活かしながら、理想の将来像を考える話し合いの場のことです。
ふれあい・いきいきサロン	高齢者や障がい者、子育て中の親子などが、身近な場所で気軽に仲間づくりや生きがいづくりを行い、地域でいつまでもいきいきと暮らせることを目指す交流活動です。
ふれあい給食サービス	高齢者等が食事を通して交流をし、孤独感を緩和することを目的に地域福祉推進協議会が行っています。
ふれあいネットワーク活動	支援が必要な人をご近所同士で見守り、必要な福祉サービスにつなげる活動です。瑞穂区ではすべての学区で実施しています。
ポッチャ	年齢、性別、障がいのあるなしにかかわらず、すべての人が一緒に競い合えるスポーツです。パラリンピックの正式種目です。
ボランティアコーディネート	ボランティアをしたい人と必要とする人を結びつける役割のことです。区社協ボランティアセンターのボランティアコーディネーターがその役割を担っています。
瑞穂区将来ビジョン	瑞穂区を取り巻く社会状況の変化を踏まえ、めざすべき姿とその実現に向けた中長期の取組みを体系化したものです。
もの忘れ検診	認知症を早期に発見して適切な治療につなげることや、予防のきっかけとすることを目的とした検診のことです。対象は65歳以上の市民で、認知症と診断を受けていない方になります。
ヤングケアラー	本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っている子どものことです。
予防的福祉	個人や世帯が抱える課題が深刻化し、解決が難しい状態になる前に早期に発見して支援につなげることです。地域住民同士の見守り、地域住民と専門職の連携、専門職同士の協働により、予防的福祉を推進します。



## 第5次瑞穂区地域福祉活動計画

みんなが ずっと ホツ とできる

# みず **ホツ** とプラン

2024-2028

社会福祉法人名古屋市瑞穂区社会福祉協議会

〒467-0016 名古屋市瑞穂区佐渡町3丁目18番地

電話：052-841-4063

FAX：052-841-4080

メールアドレス：mail@mizuho-shakyo.jp

発行年月：令和6年3月

